

山ざくら

関東氷上郷友会

昭和57年4月

第13号



文範





渡辺紙工業株式会社

取締役会長 渡辺金三 取締役社長 岡崎一二郎

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店工場	東京都足立区中央本町 5 丁目 22 番 12 号 Tel 849—6611(代)
" 関宿工場	千葉県東葛飾郡関宿町大字台町 2192 番 Tel 0471—96—1721(代)
東京支店営業所	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8F> Tel 861—2331(代)
名古屋支店工場	名古屋市西区又穂町 3 丁目 13 番地 Tel 521—8111(代)
大阪支店 工場	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
九州支店 工場	福岡県粕屋郡久山町猪野小柳 884 番 1 号 Tel 09297—6—2211(代)



渡辺製袋株式会社

取締役社長 渡辺金三

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8F> Tel 861—2331(代)
大阪支店	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
藤岡工場	栃木県下都賀郡藤岡町内町 4938 番地 Tel 028262—3321(代)
兵庫工場	兵庫県加古郡稲美町蛸草 1438—1 番地 Tel 0794—95—0257(代)

丹波
 細見綾子
 俳句



俳句

『丹波』

細見綾子

(柏原)

(色紙 細見綾子筆)

山裾の桑畑にまづ秋の風

牛の子のたどたどしさに秋の風

牛の子の生れしばかりや青毬栗

黒牛のねまれる土に栗落つる

猪垣の裾の山萩咲きはじむ

盆過ぎて但馬へ峠越えをせし

秋燕となり電線に休むかな

電線の雨のしづくの秋燕

蛭神なる祠のまはりの蟻地獄

蟻地獄にかがむ故郷の時間かな

——俳誌『風』五六年十一月号より

栗枯葉かぶさりてゐし路の苔

故里の短かき蓬摘まんな

彼岸過ぎの大雪ふるさと人嘆く

畦焼きしあと地卵を売りにゆく

窯場より雑木明るき春しぐれ(立抗)

——『俳句』五六年六月号より

山ざる 13号 目次

表紙「桔梗」・常岡文亀画……………(渡辺金三氏蔵)……………

扉・「桃の花」・『丹波』……………細見 綾子……………1

会長辞任に際して……………足立 三治……………2

足立さんありがとう……………山ざる誌一同……………3

新春の役員会開く・新正副会長挨拶……………4

氷上郷友会と私……………伴 伸 信次……………4

ご挨拶……………村上 末吉……………6

裏方「就任のいきさつ」……………渡辺 隆男……………6

有田さんら四氏を祝う・五十六年度祝寿会……………7

有田さん八十年の歩み・胸像建立……………畑 光……………8

細見さんの叙勲……………植村 章子……………9

感想——丹波の恩恵……………細見 綾子……………10

西川政一さん・メキシコ政府から受賞……………10

ふるさと・あれ・これ……………芦田 確次……………11

「いもせ」と「さるとり」……………細見 末雄……………15

私の住宅問題……………坂本 重雄……………22

日本舞踊ひと筋(下)……………西崎 祥……………24

会長辞任に際して

足立三治



昨今のように激動する社会にあって痛切に感じることは、何らなすべきこともなく一年が夢のように過ぎ去り、そしてまた十年も一日の如き超スピードで転換しているように思えてならないことであります。

私は昭和四十六年、名会長の石橋さんが情熱をもって本会の発展に寄与されながら、不幸にして他界されたあと、はからずも会長の重責を荷うことになりました。以来今日まで会員諸氏の温かい友情と厚い御支援とにより、十年の歳月が過ぎました。その間私は常に誠実な郷土愛の精神をモットーとして、大過なく対応することができたことをこの上もない喜びと感しております。

幸いに会員も増加の一途をたどり、本会の運営も常になごやかなうちに経過いたしました。とくに会誌「山ざる」が、刊行を重ねる毎に皆さまから感謝と期待をもつて迎えられるまでに飛躍的な発展をとげたことは、誠に喜ばしい限りであります。「山ざる」の寄稿者、関係者や編集者御一同の御努力に対し、感謝の念でいっぱいです。今後とも本誌を、わが関東氷上郷友会発展のシンボルとしていつまでも続けられることを念願して止みません。

アヒルが家族に!!	村上 末吉	29
おやじへの手紙	足立 治	32
柏原藩の神道無念流	古倉 克実	33
ふるさと遠きにありて	梶原 清	36
スーダン民主共和国の現状と将来性	若林 敏郎	38
句集『水上郡』	沢木 欣一	43
新会長に伴仲氏選ぶ・盛会の五十六年度総会		44
役員改選・出席者		44
ドライブとゴルフの会・水上囲碁会		44
昭和五十六年度決算報告		46
柏陵同窓会・柏陵第三回クラス会		47
本の紹介『篠山練兵場』		48
常岡父子の日本画展開く		48
日本舞踊△西崎祥の会△にご招待		49
梶原参議院議員も出席『山ざる会』		50
「ひかみ会」について	足立 正	50
渡辺紙工業株式会社創業七十年・鶴二文社創業三十年他		51
水上郷友会会則・沿革		52
お便り・短信・転居・転任		53
年会費領収報告		59
あとがき		巻末
会員名簿		巻末

なおまた、本会で数年前に誕生した「祝寿会」もすばらしい行事であります。私共の尊敬する諸先輩が、青雲の志をもつて郷土を離れ、遠く古里の山河に想いを馳せながら日夜奮闘された御苦労と、長かった八十年の尊い人生体験に対する、会員各位あげての祝福は、丹波人ならではの心暖まる催しであります。祝福を受けられた諸先輩の温顔とその喜びを目のあたりにでき得たことも私の忘れることのできない思い出であります。

ここに過去十年にわたる私の会長としての任務を終るにあたり、今日まで賜りました御支援、御指導に対し、改めて心から感謝を申しあげると共に、今後わが関東水上郷友会が強い団結のもと、益々発展されんことを切望し、併せて会員各位の御健康と御多幸を祈念いたしまして私の御挨拶といたします。

昭和五十七年一月

足立さん、ありがとう

足立三治さん、十年にわたる長い間、ほんとうにご苦労かけました。公私ともきわめてお忙がしいお立場にあられながら、ふるさとのためとはいえ、よく頑張ってくださいました。おかげでわが郷友会も、その間に飛躍的な発展をいたしました。ありがとうございます。会員一同深く感謝しております。今後ともますますご健康で、郷友会のためにもお力をお貸しください。

お礼とお願いを申しあげてご挨拶いたします。

昭和五十七年二月

「山ざる」誌・一同

新春の役員会開く

新正副会長挨拶

別記の通り昨秋の総会で役員が改選された。足立三治氏に代って伴仲信次氏が会長に、村上末吉、渡辺隆男両氏が副会長に選ばれた。そこで、本年初の役員会が二月九日・銀座のフサヒ会館で開かれ、三十余名が出席した。席上新会長より今後の本会運営についての決意が述べられ、出席者一同から絶大な拍手声援が送られた。以下に正副新会長の挨拶を掲載、ご紹介する。

水上郷友会と私

会長 伴 仲 信 次

昨秋の総会におきましてご指名により、伝統ある関東水上郷友会の第七代目会長の重責を荷うことになりました。

もとより浅学非才、その器でないことは重々承知しておりますが、先輩各位のご示教を仰ぎつつ、私なりに懸命に奉仕する所存でございます。

私と郷友会とのかわりは大正末期にはじまります。

私は大正十年に郷里の春日部村を離れて大阪に学び、震災後の大正十四年に東京に来了した。当時の東京は大へん遠いところという印象

が強く、一人異郷に在る、といった寂しさ、身寄りのない孤独感に悩まされたものでした。

そんなあるとき、同村出身の荻野定一郎さん（弁護士で東京第一弁護士会々長。昭和五十五年・八十六歳で逝去）のことを知り、大崎のお宅を訪ねていろいろお話をうかがい、大へん心強く感じました。またそのとき折よく堀川万次さんにもお目にかかり、郷友会の存在を知った次第です。

丸の内仲六号館？に小谷商会を訪れ、当時郷友会の事務所でありお世話もしておられた小谷哲さんにお目にかかって会員に加えていただきました。小谷哲さんは田昌氏（大蔵次官代議士）の弟さんで、現郷友会顧問・小谷正雄さんの父君にあたりますが、以来大へんお世話になりました。

当時の水上郷友会は、たしか六、七十人の会員があったと思いますが、この東京の各方面で活躍されていることを知りました。その頃二十歳そこそこの若僧であった私には、雲の上の人たちの会のような印象を受けたのですが、それがどれほど心強いはげみとなったかは計りしれないものがあります。

昭和六年から十三年まで再び大阪で生活することになり、再度上京した頃は支那事変、大東亜戦争と戦争一色の時代に入り、あまり会合もなかったと思います。ミッドウェー海戦で山本五十六長官戦死の直後のことでしたが、郷友・大西滝次郎さんが海軍航空本部長になられ、東洋経済クラブで講演会を催したときは、大講堂も超満員の盛況であったことが強く印象に残っております。これまでの郷友会としては最大の動員数でありました。



会長 伴仲信次氏

戦後は堀川万次さんが郷友会のお世話に力を注がれ、二八年一月には新橋駅二階の日本食堂で、季節料理の丹波の猪鍋を囲んでの郷友会が催されたものです。丹波から来た娘さんたちのサーブで、丹波弁丸出しではしゃぎ、ときには黒井音頭や福知山踊りが飛び出すなど、大へん賑やかで楽しい会でした。

そんな会の昭和二十八年でしたが、石橋次郎八さんが会長に就任され、会の事務所も石橋生糸(株)に置き、漸次会の組織化が進められました。そして四十一年には、会のシンボルともいべき本誌『山ざる』の第一号が創刊された次第です。

四十六年、石橋会長の逝去によって、足立三治氏が六代め会長に就任され、熱烈な郷土愛をもって会の発展に尽くされました。また会を今日の盛況に運ばれた功績はまことに顕著であります。

四十五年頃から郷友会の事務所並びに事務局を私が引き受けて今日に至りましたが、計らずも今回、足立名会長のあとを私がお受けする

こととなりました。身に余る光栄と感ずるとともに、内心忸怩たるものを禁じえませぬ。

何とぞご叱声、ご鞭撻賜わらんことをお願い申しあげます。次第でございます。(五七、二、八記)

へ伴仲信次氏略歴

明治三十九年十二月十六日 春日部村多利に栄蔵次男として誕生。

大正十年三月 春日部小学校高等科卒業。

大正十三年 関西商工学校建築科卒業(現関西大倉高校)。

大正十一年 合名会社山本組入社。

大正十四年 住友銀行麹町支店工事。

大正十五年 浅草電気館(映画館)工事。

昭和三年 広島電信隊入営、後帰休。

昭和三年六月 近藤滋弥男爵邸建築係、同家麻布別邸の設計監督(戦後スイス大使館となり、昭和五十四年千葉・長

柄ふる里村に移築、保存さる)。

大阪岡村上工務店に入社。

昭和六年 岡藤木工務店入社。

昭和十二年 岡藤井組入社・取締役。

昭和十四年 独立自営、航空本部等建築。

昭和十九年 春日建設(株)設立、社長に就任し現在に至る。

昭和二十四年 麹町法人会副会長・理事。

幼東京都建築士事務所協会千代田支部副支部長。

東京商工会議所評議員。

日建ユニオン東京事業協同組合理事長、同全国連合

会副会長。

ライオンズクラブ330A地区第8R25ゾーン・チェア

マンその他。

副会長村上末吉氏



副会長渡辺隆男氏



ご挨拶

副会長 村上末吉

この度はからず副会長に選出され、その任に非ずと思うのですが、お受けすることになりました。

郷友会は歴史が古く、諸先輩のご尽力で今日の発展をきたしております。本会をいっそう充実させて、次代へ引き継ぐ責任がありましよう。そのためには会員諸賢のご意向に沿って運営をさせていただくとだと思っております。

皆さまのご支援ご指導を切にお願い申し上げます。

〈村上末吉氏略歴〉

大正八年 春日町大路中山に生まる。

新工業大学建築学科卒業。現在桂建築総合研究所一級建築士事務所々長。 鶴桂工務店・鶴商店建築社・鶴桂研究所・各社長。

“裏方”就任のいきさつ

副会長 渡辺隆男

「あんたこんど副会長をやってもらいたいんや」と、昨秋A氏とB氏とから根廻しがありました。「そんなむちゃな、大先輩がなんぼでもおってだっしやろ、僕みたいな若僧の出る幕とちがいまっせ」とお答えしました。ところがB氏は「あんたなんぼかいな、五十三、ほーう、もうええ年やないか、昔は人生五十ちゆうたもんや」とおっしゃる。そしてA氏もB氏もC氏も異口同音に「断われまへんで、みんな好んでやるわけやない、郷友会のためや！」と——すべてが一方通行のご指名でありました。

私は本誌「山ざる」の編集助手と制作を担当して十一年めになりますが、その間、編集長・松山幸逸（竹水）氏の献身ぶりには、常に感心というよりは一種の感激をさおぼえておりました。この13号も歳八十を越えた竹水翁が、杖にすがりながらも原稿を集め、編集をつづけられた成果なのです。竹水翁は郷友に会うと誰かれなく「山ざるに原稿たのむ、ついでに広告もたのむよ」がいつも口ぐせであります。松山さんの郷友会に対する愛情が、まさに機関車のごとくこの「山ざる」を引っぱってこられたのです。

「若いもんがもっとやらんといかんな」と、私は心の中いつも思うのですが、竹水翁の熱情にはとうてい及ぶべくもありません。

このたびのご指名は副会長とのことですが、名はどうであれ私は『裏方』として、この際諸先輩の手足となって役立とうと決意を新たにいたしました。「山ざる」誌に関しては、幸い原稿・広告資金集めには顔の広い足立正さん、編集には読売新聞の専門家・小田富士夫さん、そのほか若手？の人材にはことかきません。竹水翁を相談役として、この「山ざる」誌にもっともつと多くの郷友がご寄稿いただくように、そしてわが郷友の『暖い心のきずな』としての付加価値をさらにさらに高めるように、努力いたしたく存じおります。

郷友諸賢の絶大なご協力とご支援とを心からお願ひ申しあげます。

〈渡辺隆男氏略歴〉

昭和三年旧水上郡沼貫村朝坂に生まる。

昭和二十年、柏原中学校卒業、昭和二十三年、東海科学専門学校（現東海大学の前身）卒業後、岡白水社（出版）に入社、昭和二十七年、独立して岡二文社を創業、社長として現在に至る。出版団体幹事、日本書籍出版協会評議員。

有田さんら四氏を祝う

五十六年度・祝寿会

五十六年度の祝寿会は、十一月十五日、午後一時から東京市ヶ谷の

番町共済会館で、当日の総会に先だつて開かれた。今回満八十歳を迎えた郷友会員は左の四氏であった。

有田喜一氏、田中健治氏、中野正義氏、宮本はるゑさん。

四氏いずれもお招きしたのだったが、ご出席は相にく有田さんだけで淋しかった。しかし郷里から石井敏秋水上町長、細見新春日町助役もかけつけ、出席者四十四名が賑やかな祝福の拍手を送るうちに、足立会長より祝品（花瓶）の目録が贈られ、有田さんから謝辞があつて盛会のうちに会を閉じた。

なお欠席された三氏へはそれぞれ祝品を別途贈呈した。三氏からはそれぞれ左記のようなお礼の言葉などが寄せられている。

宮本はるゑさん「このたび傘寿の祝いのお招きを頂きましたが、不自由な身体で出席できませず残念に存じておりましたところ、本日、京都・正文作の花瓶を贈られ、有難く頂戴いたしました。大切に愛用し、皆様の御厚意に感謝申しあげます。

中野正義さん「会員としての務めもなすところなき私に、この度記念品を恵与いただき、いろいろ迷いましたが、種々考えてご返送申し上げるのも失礼と存じ、皆様の御厚意を永く感謝申しあげます。

田中健治さん「御招待を頂き、まことに有難とう存じますが、永らくの病気のため欠席させて頂きます。

有田さん八十年の歩み

畑 光

(篠 山)

(一) 出版を祝う会



曾孫より花束を受ける有田先生

本会名誉会長有田喜一さんが、健康上の理由もあって昭和五十一年末で政界の第一線を引退されたことは、ご承知の通りであるが、その後、幼少の時から今日に至るまでの主なことについての思い出を綴って、昭和五十六年四月三十日の誕生日で満八十歳を迎え、傘寿を記念して「八十年の歩み」を著述され、その出版を祝う会が、同年五月十二日東京の赤坂プリンスホテルで盛

大に開かれた。元総理福田赳夫、経団連会長稲山嘉寛さんら政財界の有力者多数が発起人だったこともあり、参加者は約一千人に及んだ。主な出席者は、元総理大臣岸信介・福田赳夫・田中角栄の三氏を始め、政界の大物がずらりと顔を揃え、また野党側からも民社党委員長佐々木良作、新自由クラブ代表田川誠一、社民連代表田英夫氏らの出席もあり、かつては福田派の代表世話人として活躍された貫録を充分発揮された催しであった。

この中で特に印象的だったのは、田中元総理が「有田先生が、天下国家のために福田さんと手を握れといって、わざわざ何回も私を訪ねてくれた」という裏話をする一幕もあり、角福戦争といわれた一時期もあったが、福田・田中両元総理が仲よく肩を並べて盃をかわしておられたことであった。尚郷里から氷上町石井町長、生野町岩崎町長らの他、氷上郷友会足立三治会長はじめ、氷上、多紀郷友ら多数出席して祝福した。



氷上町役場前に立てられた有田先生の胸像全景

(二) 胸像建立のお祝い

東京での出版記念と呼応して郷里では、石井水上町長が中心となり生田克巳県議員、小谷祐通（元篠山町長）、木本三郎（豊岡市商工会議新会頭）の四氏が發起人代表となり、胸像建立の議が起こり、昨年七月十九日に水上町役場前大広場で、除幕式が行われた。当日の参加者は約千人。

胸像の制作は、柏原町の磯尾柏里氏、台座は地元鍛内石材店、高さ三メートルに及ぶ堂々たるものである。碑文は左記の通りで、日展無審査の書道家岡田契雪氏によって揮毫された。

除幕は有田さんの曾孫塚起亜紀ちゃん、同美帆ちゃんの二人により、石井町長の介添えで切っておとされた。ついで東京水上郷友会長足立三治さんをはじめ地元各氏の祝辞があり、式後会場を水上町体育館に移して、祝賀会に入った。盛りだくさんの趣好もあつて、晴天にも恵まれ盛大だった。

なお有田さんは挨拶の最後に『只一つ心残りは、丹波から一人の代議士もないことである。いろいろな事情があるだろうが、代議士がないことが如何に丹波の発展を阻害していることか……なんとか丹波から私に代る代議士を送り出してほしい』と切々に訴えられた。誠に印象的な一幕であった。

碑文

有田喜一先生は、明治三十四年生れ、水上町谷村に育ち、東京帝国大学を卒業後通信省に入り、電力国家管理や、配電統合の大業を為し

遂げ、また海事産業の今日の隆盛の基礎をつくられ、内閣官房副長官を最後に官界を去り、昭和二十四年衆議院議員に当選、文部大臣、科学技術庁長官、防衛庁長官、経済企画庁長官等、数度に渉り台閣に列せられた。一方、郷土の開発発展に寄与せられた事績は枚挙にいとまがない。さきに勲一等旭日大綬章叙勲の榮譽と更に、衆議院在職二十五年の永年勤続表彰を受けられたことは慶賀にたえない。

水上町名誉町民

昭和五十六年生誕八十年を記念して
有志相図り、これを建立する。

細見さんの叙勲

植村 章子

(春日)

柏原町の生んだ女流俳人・細見綾子さん（現沢木欣一氏夫人）が、五十六年四月、春の叙勲で勲四等瑞宝章を受賞されました。俳句界での叙勲は珍しい榮譽とあつて、同年六月十三日、東京の京王プラザホテルで二百名近い友人、知人が集まり、盛大な祝賀会が開かれました。

乾杯の音頭を元日航社長長の柳田誠二郎さんがとったあと、井本お茶の水大教授、戸沢衆院議員、安嶋東宮大夫、柴田白葉女史らから次々に祝辞が述べられ、最後に細見さんから丁寧な謝辞があつて、めでた



祝福される細見綾子さん(昭56・6・13)

く幕となりました。

細見さん主宰の俳句雑誌『風』は、昨秋十一月で創刊三十五周年を迎え、誌歴四百号を記念号として発行、俳句界に大きな足跡をしるされましたが、当該が俳句界に与えた影響にもまたさまざまなものがありました。

どうかいつまでもお元気で活躍いただきますようお祈り申し上げます。

甘露埋めし焚火を子等の育ており

蓮根堀熱き甘酒届きけり

里宮に湧水溢れ根白草

蝗追ふ親子が畦を踏み外づす

薄紅の仔豚寄り合ふ草の花

(章子)

感想——丹波の恩恵

細見綾子

叙勲の感想は、ときかれて、すぐに答えられるようなものは持っていません。ただ長いこと俳句を作ってきたことに対する、ごほうびのようなものと思います。

勲章、と俳句は、ほとんど無縁に近いものです。無縁とはいかなくても最も遠い距離の両端にあるものです。俳句を作っていて勲章をもらうのはどうもそぐわない感じがします。

俳句ではおおむね自然を詠います。私の自然は、丹波にはじまり、丹波に終るもののようです。俳句を作ることによって、ますます丹波は私の原風景となりました。丹波の恩恵を非常に意識する次第です。勲章は丹波の自然がいただいたものと思っています。

西川政一さん

メキシコ政府から受賞

メキシコ政府が自国との文化交流、親善友好、発展向上に功績のあ

つた人々に贈る『アギラ・アステカ』アステカの驚、即ちメキシコの文化勲章が、わが郷友・西川政一さん（日本メキシコ協会々長）に贈られた。さる五十六年十二月三日、東京永田町のメキシコ大使館で受賞式が行なわれ、同月十四日夜、大手町の竹橋会館で盛大な祝賀会が開催された。写真はその席上勲章を胸に祝福を受ける、ご満悦の西川さん夫妻の晴れ姿。



ふるさと・あれ・これ

——出土した銅鐸など——

芦田 確次

（春日町在住）

ふる里へ帰られる機会の少ない皆さんへ近況を報告します。道路がよくなって自動車がふえ、家が建ちかわって生活環境は見違えるようによくなった。町はずれでもスーパーは駐車場が大きければ繁昌し、服飾は都会も地方も同じことは認めません。第一、農業の社会がそんでおれない時代になったことは否めません。第一、農業の社会がそうです。米の減反政策で年ごとに米作反別を減らされ、税や諸資材など必要経費増に対して据え置きに近い米価では、安定経営のための換金作物に眼を血走らせ、さらには農外収入の道を求めねばなりません。

昭和三十五年の氷上郡内の専業農家二九二五が、五十五年には七九二戸に減り、反対に農を片手間にする農家四四〇二が五十五年には八八九六戸にふえたのは、右の事情を物語るものです。商工業とも同じで増えたのは自動車と電機関係だけといわれますが、それらも例外でなく、道はけわしいのです。

○

数字でみる氷上郡 わが国の標準時を定める子午線東経一三五度と北緯三五度線が交差する西脇市は、日本のヘソといわれています

が、その子午線は山南、氷上、青垣町を縦貫して、氷上郡が日本領土のほぼ中央に位置していることは周知の通りです。その郡面積は四九二八四町歩（ヘクタール）で、多紀郡三七六一七町歩を合した丹波の広さが兵庫県の一〇・四％にあたり、春日町や市島町（各約七七〇〇町歩）が大体県面積の百分の一に相当します。そうした各町面積の中で、田畑が占める比率の最も高いのが春日町の二・六％で氷上、市島が一六％強、最少は青垣の九・八％ということは、農家一戸当りの耕作反別が、春日が多く青垣が比較的少ないということになります。その反面山林原野、その他河川、道路は青垣山南町の比率が高く、宅地は柏原町が最も高くなっています。

人口は別表のように全部で七万二九八二人は、戦時中の疎開でふくめた昭和二十年以降減りつづけ、昭和五十年から横ばい状態になり、柏原町の増が目立っています。七万三千人は今から百年昔の明治十年代の郡人口に等しいのですから過疎という言葉返上にはほど遠く、そして六十五歳以上の老人人口率は一六％、これは県平均の九・二％よりはるかに高いのです。伴たちは都会へ出てしまい老夫婦で伝来の

町 名	面 積	世帯数	人 口	1km ² 人口密度
	km ²		人	人
柏 原	30.85	2361	8260	267.7
氷 上	110.22	4694	18991	172.3
青 垣	100.15	2095	8253	82.4
春日	76.80	3360	13154	171.3
山 南	98.03	3585	14265	145.5
市 島	76.79	2568	10059	131.0
計	492.84	18663	72982	

田畑を守っている世帯が多いことや、環境衛生がよくなり医療技術の向上が高令社会を現出したのでしょうが、兵庫県下の核家庭比率が六四％なのに対し丹波は四六・一％と低く、親子二代あるいは三代家族が仲よく暮らしているという傍証ともいえるでしょう。

五十四年中の死因状態をみますと、六町の合計七〇五人のうち脳血管疾患一七五、心疾患一四七、悪性新生物一四一、老衰四九人で心疾患による死亡率が漸増しています。生活に欠かせない水道設備は、各町とも重点事業として力を入れましたので、郡全体では九二％が上水道や簡易水道、特設水道のいずれかを利用し、井戸水や谷水を飲用する家庭は減りました。ゴミ処理も町営施設をもち、し尿も自家処理がぐんと減りましたが、水洗化は、公共施設や企業等が主で一般家庭を合せて一〇％に達していません。目下氷上町が成松を中心にした下水処理を拡大工事中で、柏原でも下水道新設に年次計画でとりこんでいます。

道路は、五十六年末で丹波地区の国道実延長一〇六キロ三三〇（県の一六・八％）の全部、県道四〇九キロ五七八の八〇％を改良舗装済みとなりました。自動車の保有台数は一世帯当り一・七五台で、県平均の〇・七四台を大きく上回りその上自動二輪車、農業用諸車を加えると石油類で動く車の台数は四台平均になるとみられます。電話も、百人当り柏原が三五・八台、以下氷上、市島、青垣、春日と続き山南が二七・五台の普及ぶりです。

最後に県一を一つ。それは住宅です。但馬に次いで丹波は木造住宅が多く全体の九五・七％は、県平均の七五・三％をこえています。持ち家率は九一・五％で、それは県平均の五五・六％をはるかに越え

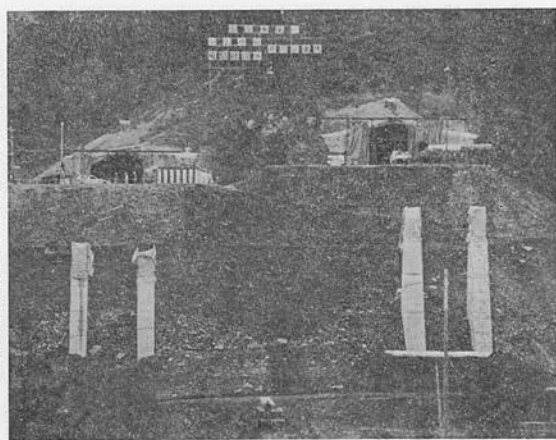
て県下最高で、一人当りの量数も一〇・一三量と県平均の七・四八量を大きく上回っています。が、いいかえると、ここにも過疎の影がひそんでいて、いえるのかも知れません。

その他、昨今郡民の注目するトビツクの二、三を挙げてみます。

○ 進むほ場整備事業 これからの農業は機械力を駆使して人力を省き、純率を上げねばならない、そのためには機械力を發揮できる農地に改造せねばならないというわけで、どの町ともほ場整備に取り組んでいます。トラクターなど大型農機が通れる広い道路と水路が縦横に走り、一枚三反歩の農地が碁盤の目のようにならぶ田園風景は『農地の革命』といわれるにふさわしい姿です。現在郡内のは場整備が可能なのは約四七五〇町歩（ヘクタール）のうち二四二五町歩、率にして五一％が大型農地に生れかわりました。市島町の九一％をトップに、他町も約四〇％を完了し、春日町は年次事業で六〇〇余町歩を、氷上町は幸世地区を完了して今春から沼貫地区二二五町歩にいでんています。一枚（三反歩）の田んぼに改造するのに約三五〇万円を要する大事業ですし、さらに耕作に必要な農機具をそろえるとなると、農業経営も容易ではありません。五十五年度の丹波での農家平均一戸当り純所得が三五万四千元、反当り四万八千元という統計もでています。減反政策で米作りが思うようにできない現在、農地活用の智慧が、緊急最大の課題といえそうです。

○ かわる道路・交通図 柏原の町はずれから石生商店街を逃れて横田から市辺へ抜けるバイパス。春日町朝日から黒井市街地の南を通って

多田へ至る二・五キロの国道175号新道が開通しました。市島にも、佐治にも、和田にもバイパスができて交通渋滞は大巾に解消しましたが、こんどは国鉄福知山線が話題となつています。複線電化することとは早々と決まりましたが、複線化はいつのことやら予測もつかず、先ず電化からと架線電柱は建ち始めましたが、奥野々、塩津トンネルを改造しないと架線は不可能で、これから先何年かかるかですが、それよりも国鉄赤十字のシ



春日町中山に口をあげた近畿自動車線の鏡峠のトンネル

ワ寄せで丹波竹田と下滝駅は無人化となり、市島駅と石生駅は民間の代行会社へ業務移管することにきまり、貨物取扱いは郡内皆無になり、福知山鉄道管理局廃止も時間の問題らしく、斜陽国鉄どこへ行くというのが現状です。

その国鉄と対照的に期待を集めているのが近畿自動車道舞鶴線です。昭和四十六年に新設基本計画がきまってから十年で工事が始り

ました。中国自動車道吉川ic（美濃郡吉川町）から分れて三田、多紀郡丹南町、春日町、市島町、福知山、綾部を経て舞鶴に至る全長七六・五キロの同道は、三田、丹南、春日、福知山、綾部にインターチェンジを設け、事業費概算一八三二億円です。昨年から多紀水上郡境の三尾連山の春日町中山鏡峠トンネル（全長二三三四メートル）の掘削工事が始まり、すでに四〇〇メートルを掘り進めています。市島町上牧と福知山市境の大内山トンネル（一三〇〇メートル）も近く着工して今年中には大幅に工事が捗るでしょうが、ただ通ってもらうだけの高速道にならないよう、地元をあげて産業、観光、文化振興に対応が望まれるのです。

○
成果あげる広域行政 移り変わるふる里報告で書きとめねばならないのは広域行政化です。一自治体ではできないことを関係市町村が協力してやる行政です。戦前でも水上郡内二十五カ町村で共有山林を育てて郡公会堂をつくり、郡立高等女学校を建てましたが、近年はその比ではなく、阪神地区の西宮、伊丹など六市一町と水上多紀十町が、青垣町西芦田に「少年自然の家」を設けて少年育成に成果をあげていますが、それを核にしてさらに新しい構想が練られています。丹波、丹後、但馬をむすぶ「三たん開発促進協議会」は交通や観光開発にとりくみ治績をあげました。多紀郡と協力の丹波開発促進協会は、もっとも典型的な広域行政体で、さい近も柏原の赤十字病院内に両郡共用の伝染病棟を完成させました。

また水上郡六町で郡民会館、消防本部、教育委員会、休日診療所等々の共同設置や、多可郡を加えてし尿処理施設をつくりました。もつ



春日町野上野から出土した銅鐸一号

と小さい範囲では春日と市島町が竹田川改修や追入―市島線の道路改善につとめ、青垣水上町も同様に佐治川改修等の期成同盟をつくって成果をあげています。遠阪トンネルの貫通は但馬との連携の成果です。こんど山南町ではお隣りの多可郡四町と共用の火葬場を新設します。郡を越えてこの種の行政活動は拡大して行きます。

○
春日町で銅鐸が出土 昨年の山ざる誌に水上郡の埋蔵文化財のことを書きまして、春日町七日市遺跡をとりあげましたが、その後の調査で、弥生時代中期（約二千年前）の大豪族の墓とみられる方形の大周溝墓や大住居跡多数と各種の石器、土器が出ましたが、昨秋、そこから約五〇メートル離れた野上野塩ヶ谷の山すそから銅鐸（高さ二二c m）一個が発見されました。兵庫県の内陸部からは初の発掘で、ま

た発掘現場がそのまま保持されていて一躍有名になり、銅鐸の謎をとく貴重資料と騒がれている折も折、近くから第二号銅鐸が土中から頭を出しているのを発見。国や県の大がかりな調査団によって研究が統行されています。

銅鐸は風鈴を大きくして、押さえつけた形の銅器で、弥生時代の祭祀集団を象徴する祭具だったとも言われ、妙な音色を神の声とあがめたとも、また米作が始まった地域集団が、農の神とあがめ春の農始め、秋の収穫時に祭祀するはかは聖なる地に埋めたとも言われる謎の考古遺物です。いずれにせよ二千年の昔のわれわれの祖先たちの生活文化を知る上の貴重な資料であり、ふるさとの時代の重みを今に伝える宝ものとして、郡民の関心をあつめています。

○

とりあげたい事は多々ありますが、長文になりますので、最後にコケッコーと鳴く鶏が、近ごろ上手に鳴けなくなった話を。一棟に三千、五千羽を飼う鶏舎が並んでいてもみんな採卵のめん鶏ばかりでめん鶏は一羽もおりません。たまにチャボや、自家用の卵採りに雄雌両棲の小羽数が飼われているだけですから、聞いて鳴いて上手になると聞く機会がなく、我流の中途半端なコケッコーで満足しているというわけです。鶏声で朝の到来を知らされた時代は遠くなりけりというところでしょうか。

皆さんの御多祥をお祈りします。

▼特別寄稿▲

『ごもせ』と『さるとり』

細見末雄

(氷上町横田在住)

ごもせ

ゴモセとかゴモシヨという言葉は氷上郡のOB族にとっては、まことになつかしい。田植を終って端午の節句には、家々で米の粉をこねて中にアンを入れ、イバラかカシワの葉で包み、それを蒸して頬張った。この餅をゴモセ・ゴモシヨなどと呼んだ。今の柏餅である。

柏餅を包むカシワ(ブナ科)は丹波にはごく少ない。そのため家によつては屋敷や畑の隅に一本植えて、月遅れの節句に使う葉を用意していた。カシワは裏日本の海岸の崖に多く、山陰から北陸



細見末雄氏

・北海道に自生しているけれども、近畿地方の内陸部では標高六〇〇メートル以上ぐらいのブナ帯のガレ場に生じている。このカシワも氷上郡ではゴモセ・ゴモシヨなどと呼ばれるだ。

カシワの方言について、故

牧野富太郎博士は、昭和三年の『植物研究雑誌』に「我が植物方言録ノ中カラ」という題で「ごもそ（かしわ）丹後舞鶴辺、ごもそトハ御紋所ノ約言デアル。藩主牧野家ノ紋章三ツガシワナレバ、僻陋ノ地ではかしわト云ハズごもそト称ヘタ」と書かれている。それでゴモセの方言の発祥地が舞鶴なら、由良川筋を通じて氷上郡へ上つて来たはずと、丹後大江町役場に尋ねたが、そんなことは全く言わないとの返事であった。それなら山越の道をたどったのかも知れないと同加悦町にも尋ねたが同様であった。さらに舞鶴市、宮津市の公民館に問い合わせても、そんな言葉は知らないとの事。もう今日の若者や中年層には通用しないのであろう。さらに当然の径路と思われる天田郡では、福知山市上佐々木でカシワをドウナラと呼び、三岳では柏餅はイビツイバラ（サルトリイバラ）で包みシバモチという。ただ榎原でゴモセと聞いたのみであった。夜久野町稲垣もドウナラである。

そこで氷上郡内のカシワの方言は、

ゴモシヤ 山南町久下

ゴモシヨ 市島町前山・春日町多田

ゴモセ 氷上町石生・青垣町東芦田

ゴモチヨ 市島町竹田（『竹田村誌』）

ゴンゴセ 青垣町大章

ドウナラ 同右

現在私の知った方言は右の通りで、牧野説に多少の疑を持ったが、一ヶ月も経て思わぬ知らせを舞鶴市からいただいた。市の市史編集室から民俗研究家の杉本氏に尋ねたら、同市地頭でゴモシヨ、東舞鶴の朝来でゴモセと呼ぶとのことであった。やはりゴモセの発祥地は舞鶴

附近だったらしいとも考えてみた。しかし牧野説のゴモソの名は未だ聞いていないが、どこに残っているかも知れない。

近隣の但馬では出石郡赤花でゴンゴシバと呼ぶほかはマキノハ・ダシダバアソという所があるが、ほとんどドウナラと呼ぶ。京都府丹波の三郡はカシワと称している。遠隔地にはゴモセ系の方言は無いように『樹種名方言集』（昭和七年農林省山林局編）にも記載はなく、他書にも見当たらない。どうも丹波の北部から丹後にかけての狭い地域だけの名前らしい。そして方言そのものの歴史も古くないようである。

柏餅は『天正日記』が初見であると篠田統博士は『米の日本史』に書いている。そうだとすると、江戸時代に普及したと考えられ、そのころゴモセ系の方言が現われたとも考えられる。柳田説によると、古い言葉は遠隔地に残っていることが多いという。舞鶴附近の言葉がやや離れた氷上郡に多く残ったのだろうか。カシワの丹波方言については、さらに調査検討を要する。

なお田辺（舞鶴）藩主牧野氏は、寛文八年（一六六八）前藩主京極氏が豊岡に移った後に入り、加佐郡を領有して、以後明治まで二百余年間続いたが、氷上郡には全く領地はなかった。

カシワについて

カシワ（柏・榎）は古事記・日本書紀・播磨風土記・豊後風土記等に記され、食物を盛る葉として知られている。平安初期の『和名類聚抄』には「榎・柏、加之波」と書かれている。また柏木は『大和物語』『蜻蛉日記』『枕草子』などにも出ていて、古くから知られた植物である。

延喜式では祭事に多くの葉が用いられ、丹波国からは年料別貢雑物として百廿俵（一俵五十把、一把五十枚で年三十万枚）と、内膳寮へ干柝を、毎年十一月五日より翌年五月四日まで毎日一荷（五十把）を貢進すべきことが定められている。（五月五日より十一月四日まで）は山城国から青柝（生葉）を貢進）これは両方を合せるとかなり膨大な量である。この柏は主としてクボテ・ヒラデ（葉盤）を造るためで、菓子・雑肴を盛るに用いられた。『夫木抄』には、

神山の柏のくぼてさしながら

おほひなる身の栄ゆべきかな

枯れ残るの葉がしはとりしでて

けふやひらでに神まつるらし



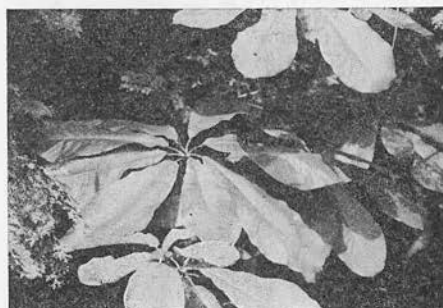
豊岡市瀬戸海岸のカシワ

とある。カシワの自生の少ない丹波から、はたして貢進できたであろうか。栽培していたなら別だが、多量の葉を送ることは、とてもできそうもない。それでは何を送ったのだろうかという点、私はおそらくコナラの葉を主として貢進したのであろうと考える。なぜなら「ならの葉がしは」と詠んでいることで、ナラは今日のコナラで、丹波ではコナラをナラと呼ぶところが多く、近畿地方では同じようにナラといえはコナラを指すことが多い。また「ひらで」は十枚くらいで造るのだから、葉のやや小さいコナラでも差支えはない。

葉守の神が宿るとされた柏木は、『大和物語』に、

かしは木に葉守の神のましけるを

知らでぞ折^(たぐ)りし崇りなざるな



(A)コナラ (B)ホウノキ



(A)アカメカシワ (B)サルトリイバラ

とあるのが、『後撰集』では、

橘(たちばな)の葉の葉守の神のましけるを

知らでぞ折りし崇(たか)りなざるな

となっている。さらにそれは柞(はく)と変る。だから古代京都附近といったカシワはナラすなわちコナラに外ならない。現在丹波、但馬ではコナラを前記したようにナラとも呼び、ホウソ(ハハソの転) またホソと呼んでいる。

種々のかしは

は他にも多い。

「かしは」は特定の木の葉でなく炊葉(かしは)の意であるとしたのは本居宣長で、この意味のカシワ

サルトリイバラ(ユリ科)はカシワと呼ぶところが多く、丹波・但馬では、カシワ(ブナ科)の葉より、この葉で柏餅を包むところが多い。どうも柏餅は、もとサルトリイバラで包んでいたのではないかと想像される。

伊勢神宮で神供用にされた「三網柏(みつながし)」は、仁徳記や延喜式にも書かれている。これについて故白井光太郎博士がオオタニワタリ(チャセンシダ科)であると唱え、牧野富太郎博士・前川文夫博士も支持されて、以前からのカクレミノ(ウコギ科)説はやや陰が薄い。宣長は「此柏三岐にて、さき尖りたれば三角の意なるべし」とすでに言い、造酒式には三津柏(みつづかし)が東宮料に用いられているから、宣長説の通り、三網柏と三角柏は同じものであろう。

オオタニワタリは岩上や樹上に生じる葉の広く長いシダで、日本の南部にのみわずかに産する。カクレミノは常緑の高木で、葉先が三裂していて、これも南部の植物であるけれども分布は広く、多産する。カクレミノの名は関東の方言から採られたらしいが、紀州ではミツバガシワ(『樹木和名考』)といい、淡路ではミツガシワ(『季節の神々』『兵庫探検民俗篇』)といい、ヤマドクサン(山から降ってくる田の神)を祭るのに用いる。『日本樹木名方言集』(大正五年農商務省山林局編)にも、カクレミノの別名としてミツナガシワを記している。

古くは志摩国風土記逸文に行基が吉津島に「三角柏を殖えて大神の御園と為しき」とある。これは明らかに樹木と考えられる。また夫木抄には、

伊勢しまやみつのかしはのたち葉もて

つつまむ袖に神まつるらん(民部卿為家)

とあり、この立葉はどうしても木の葉と考えられ、葉先の垂れるオオタニワタリではなさそうである。さらに『大言海』に「紀伊統風土記」の文が引かれ、潮御崎に「御綱柏といふ者あり、高さ丈許、其葉大さ五寸許……」とある。

以上のことから古代の御綱（角）柏はどうしてもカクレミノと思われる。現在神宮で三綱柏と称し六月の月例祭などに用いられているのはアカメガシワ（トウダイグサ科）であるという。

アカメガシワは低山にも川の堤防などにも生えているごく普通の木である。但馬の日本海沿岸の地でカシワまたはカシワギと称し、お盆には、この葉の上にだんごまたは野菜、または米と細かく切ったナスを載せて仏壇に供する。香住町・温泉町では盆の十四日、この葉の上にサバをのせ、子供にいただかせてから精進上げをする。全国的にもカシワと称するところが多く、これもかしわの一つであった。

万葉集に、

稲見野のあからがしはは時しあれど

君を吾思ふ時は実なし

播磨守であった安宿王の歌である。このアカガシワを『大言海』は「黄葉したカシワなるべし」とし、『岩波古語字典』はカシワの一種とし、『広辞苑』は「葉に赤みのある柏」としている。『岩波古典文学大系万葉集』の註は「温帯山地に自生するブナ科の落葉喬木、広い大きな葉を持ち、現在端午の節句の柏餅に使う……」としている。これらいづれもカシワとしているが、現在は古語字典のいうようにカシワには別種はなく、広辞苑の言うように葉は赤くはならない。また前記の註にある通りカシワは温帯に自生する。しかし印南野は瀬戸内側の

低地で、せいぜい丘陵くらいがあるとこで暖帯である。こんな所にカシワが生育していたとは思えない。前記したようにコナラとするなら、延喜式の「播磨櫛」の産地ともすることができ、紅葉するので、コナラに当てることもできる。しかしそれよりアカメガシワに当てた方がよいのではないか。アカメガシワなら低地に生じ、新葉は赤く、葉柄は黄葉して落葉するまで赤い。それはともかくアカメガシワも「かしわ」の一つであった。

ホウノキの葉は大きく、やわらかで食物を盛るには最適と思われる。

すめろぎの遠御代御代はいしき折り

酒のみきといふぞ此のほほがしは
と大伴家持が詠んでいるように、古代早くより用いられた。平安初期の『新撰字鏡』と『本草和名』は共に「厚朴」をホホガシワとしている。

現在もホウバメシといって、若葉に温い飯を包んで食べ、葉の香りが飯に移った味はすばらしいという。丹波・但馬の各地で昭和の初めころまで、大田植とか、さのぼりの日に、ホウバメシを早乙女たちに供したところがあった。また田の水口に枝付の数葉に飯を包んで立て、田の神に豊作を祈ったところもある。

ユズリハは現在も正月に、この葉の上に餅を載せて、神棚に供えることが続いている。賤祚大嘗祭にも記されていて、やはり「かしわ」の一つであった。

このように「かしわ」は多種の植物の葉であったが、その代表者としてブナ科のカシワが、名を専有することになったのであろう。（な

お延喜式の柏・榊については加古川流域史学会発行『河』十八号の拙論を参照していただければ幸甚に存じます)

さとり

丹波では端午の節句に食べる柏餅はサルトリイバラ(ユリ科)の葉に包むことが多かった。葉が円く大きく、表面が滑らかであるうえ、近くの山にいくらでもあるからである。ところがこのイバラは茎が一本伸びていて、刺がまばらに生じているだけで、とても名のように猿が取れるほどの代物ではない。どうも名が適合していないと前から思っていた。それで丹波の地方名を調べてみると、親しまれている植物だけで、ずい分多く、私が得たものは二〇にも及ぶ。

イバラ 氷上町新郷・夜久野町桶垣・園部町仁江

イビツイバラ 市島町竹田・福知山市喜多

カシワバアノキ 春日町黒井

サルイバラ 和知町細谷

サルカケイバラ 綾部市小仲

サルトリイバラ 京北町中地

サンキイバラ 日吉町佐々江

サンキライ 山南町和田

サンキライバラ 春日町野山・福知山市土師・和知町仏主・京北町

上川

サンキリイバラ 氷上町石生・青垣町大名草

サンケライバラ 美山町北・殿

サンゲラ 美山町下

ジャケツ 京北町林

タンキリイバラ 春日町国領・今田町四斗谷

ドウナライバラ 夜久野町羽白

ハコイバラ 春日町国領・市島町鴨庄・西紀町桑原・三和町辻

マルカキイバラ 瑞穂町質美

マルカケイバラ 福知山市野際・綾部市物部

マルカセイバラ 福知山市小牧

マンジュノハ 今田町釜屋

このうち最も多いサンキラ系の名は、中国の「山帰来」に似ているため、その代用として根を薬用にしたために称したらしい。マルカケ系は、牛に荷物を引かせるとき、荷綱を掛ける短い棒で、茎がジグザク状であるため、マルカセのへの字形に似ているためである。そして、この多くの方言の中に本名のサルトリ系が極く少いことに注目させられる。

幕末の本草学者小野蘭山は『重訂本草綱目啓蒙』にサルトリイバラの地方名を二七ヶ国四〇余を記しているが、そのうちサルトリ系は、京都サルトリイバラ、防州サルトリイギ、越後サルカキイバラ、肥後サルカケイギのみであり、故倉田悟氏も『植物と民俗』にサルカキ・サルカケ等称するのは、熊本・大分両県の一部にあるとしている。

ジャケツイバラ

一方ジャケツイバラ(マメ科)は、高さ二メートルぐらいいで、枝が横に伸びて叢生し、からみ合っている上、先の曲った鋭い刺が密に並び、いかにも猿も引つかかると捕まってしまうような低木である。山歩きをしていて、うっか

り衣服がからまるとなかなかとれない。一方をはずすと他方がからまり、強く引くと衣服が裂けてしまう。船井郡日吉町附近では、

山で怖いのはサルトリイバラ

里でこわいのはおばじゅうとめ

と歌う。もちろんこのサルトリイバラはジャケツイバラを指している。但馬の獺師にこんなことを聞いた。犬をつれて獺に出かけたが、先に進んでいた犬が急に悲鳴をあげて泣く、おかしいなと思って声の方へ近づくと、ジャケツイバラに引っかかって動きがとれず、血さへ流して、すくんでしまっていた。その刺をはずすのに時間をとられてしまつて、困つた。これならサルも捕われるのではと思われ、サルトリイバラの名は、むしろジャケツイバラの名にすべきだと思う。

丹波のジャケツイバラの方言は、

サルカキイバラ 福知山

サルトリイバラ 山南町和田、氷上町石生、春日町国領、市島町北

岡本、前山、福知山市小牧、野久野町羽白、瑞穂

町真志、日吉町佐々江、丹波町曾根

ジャクトリイバラ 篠山町市野々

ジャケツイバラ 京北町上川、美山町鶴岡

ジャツカケ 綾部市小仲

ジャツケツ 京北町中地

およそ右の通りで、和名に近い地方名を称しているのは京都の影響を受けたらしい地方のみで、丹波では断然サルトリ系が多い。

周辺地域では、播州杉原谷でサルカイイバラ、丹後河守でサルカキイバラ、但馬では日高町出石町でガンジキイバラ、生野町、朝来町で

サルカキイバラ、村岡町でサルトリイバラという。故倉田氏は鹿兒島県でサルカケ、関東・東海でサルトリイバラ、大分県でシシカケイ、熊本県でサルカケの方言を挙げてゐる。『和歌山県植物方言集』でも紀州各地でサルカキ・サルカケ・サルトリと呼び、ジャケツ系はない。小野蘭山も「雲実」の地方名に泉州でサルトリイバラ、紀州でサルカケイバラ、備前でサルトリグイをあげている。

このように全国的にも、今日のジャケツイバラをサルトリと呼ぶ方言は多いのである。

ジャケツの名が最初に現われるのは『和名類聚抄』（九二〇年ころ）で「皂莢」に「加波良布知・俗云蛇結」としている。皂莢はサイカチ（マメ科）で誤まつて当てたらしい。雲実はジャケツイバラの実で薬用とした。これは『本草和名』『和名類聚抄』共にハマササゲとしている。雲実をジャケツイバラとしたのは貝原益軒の『大和本草』（一七〇八）である。それより少し前の元禄八年（一六九五）江戸の花屋伊藤伊兵衛は『花壇地錦抄』に「サルトリイバラ花形藤のごとく色うこん」と書いている。これはジャケツイバラを指しているから、江戸時代も名は混乱していたらしい。どうもサルトリイバラとジャケツイバラはどこかでとり違えられたのであろう。植物の和名は、どこかの地方名（方言）をとり入れてできたものが多い。

筆者紹介「青垣中学校々長を退職後郷土の古代史の研究を専攻「丹波莊園」などの著作多数を出版されている学究者である。（松）

私の住宅問題

在静岡 坂本重雄

(相原)

(一)住宅問題は、日本の社会問題のうちでも最も深刻なものの一つである。人間の住居は、生活の構造や様式を左右するにとどまらない。3DKのマイホームでもサラリーマンの生涯賃金の大部分をあてないと購入できないほど高価な買物であり、住宅供給産業は、日本経済を左右する基本的条件でもある。

二〇年以前に、東京都内で公団住宅申込み二〇数回で不成功という住宅難を経験したことのある私たちも、転動し静岡市に居住して以来、一戸建の公務員住宅に住み、住宅問題を切実に感じることはなかった。

自分をとりまく生活環境を、旅行先の各地と比較して「日本一住みよい都市」だと思ってきた。ところが、五年前あたりから、東海地震の予測がマスコミでさがれ、また、近年、都市化の波で交通事故、公害も多く、問題が出てきた。とくに地震対策の一環として、建築基準の見直しや住宅管理の厳格化が進められ、勤務先の大学の校舎、住宅にまで影響を受けることになってきた。

(二)勤務先の静岡大学は、静岡駅東南方四軒へだてた日本平の山腹に位置しているが、学部校舎(昭和四三年建設)が学生・教職員の定員

増で手狭まになり、また対震対策で柱などを補強する必要性が生じてきた。一四万坪の敷地もいまや空き地が少なく、結局、学校の正門地点から標高差八十米の山の頂上部分に、六千平方メートルの六階建の学部校舎を新築し、一九八一年四月上旬に研究室、教室などが移転したのである。

近年、国公立学校の教職員、学生の定員増は厳しく抑制されているが、景気対策の意味もあって建物、設備関係では何とか必要に応じて予算が認められている。地震に耐えうる建築ということで柱や窓、部屋造りなど種々と工夫がこらされた建築であるが、何といっても眺望がすばらしい。六階の研究室からは、駿河湾や久能山が眺められ、晴れた日には御前崎の灯台がみえるし、廊下をへだてた共同研究室や会議室の北側の窓の正面には富士山が浮かび上ってみえる。



洋風建築の旧住居

ところが、この山の上の建物、さらにその六階にある研究室にまで通うのは仲々の苦勞で、そのためマイカー通勤がふえ、駐車場確保や学内での交通規制が問題となっている。マイカーと喫煙を学内からはなくすべきだと日頃公言している私などは、健脚にものをいわせて昇り降りするほかないが、決して楽なことではない。国有財産である研究室を大切に活用したいもので、登校日は、夜八時頃まで部屋に居残るのが習慣になつてきている。

(三)さらにまた、地震対策のあおりで、一〇余年住みなれた自宅を明渡し、引越しを余儀なくされることになった。静岡市内の中心部にあった駿府城趾の近くにあった旧住居は、大正末期に旧制静岡高校のドイツ人教師のために建てられた官舎をそのまま引き継いだ建物であった。外見は、神戸の異人館とそっくりの洋風で、百坪の土地に二階建四十五坪の住居であり、建物は古いが、柱や土台は堅固に出来ていた。修補費をかなりつぎこみ、自ら手間、ひまをかけて住み易く改修したもので、とりわけ四人の子供たちの成長期に好適の住宅環境であった。

庭には、松、杉、槇、桐、桜、もくせい、さつき、もみ、アメリカヤシ、パシヨウなどの樹木や草花があり、うぐいすが一〇羽ほど住みついていて、毎年三月下旬にはすばらしい鳴き声をきかせてくれた。安東という地名の住宅街は、古い城下町の名残りをとどめ、人情も厚く、となり近所や商店との付き合いなども親密であった。

四この住居を立ち退いて、新しい住居をどう確保するかが検討課題となつたが、結局、住宅ローンに頼つて郊外に住宅をもつよりは、大学の近くに建築された公務員住宅に一旦ず移転しようと決意した。新

書判だけでも二千冊を超えている自宅の蔵書を、研究室にもちこみ、はみ出た分は、寄附をしたりして処分すること、家財道具もめぼしいものはなかったとはいえ三分の二を古道具屋に売り、どうしても処分しかねる道具類(ヒナ人形など)を知合いの倉庫に預かつてもらうことにした。

幸か不幸か、これまで団地サイズの家に住んだ経験のない人間が、しかも世間の多くの人々なら、団地から一戸建に移行する年令期に、団地住いを始めることには大きな不安があり、家族も同様であつたと思う。ところが、新しい公務員住宅に住んでみて一ヶ月を経過した今日、こういう住宅もまんざらではないと思ひ始めている。まず、

(1)部屋の造りが便利に出来ていて日照、採光が良く、カギ一つで出入りが可能である。旧住宅では、外出のときの戸閉り、もの売り、セールスマンとの対応に悩まされることが多かった。

(2)建てつけのよさ、日照の良さのため、静岡の場合、一二月でも暖房は不要である。旧居では、大きな各部屋に石油・ガスのストーブを利用するに当つて子供たちに口うるさく火の用心を力説したものだ。

(3)趣味として庭の樹木、草花の世話、兎、チャボ、小鳥の飼育があつたが、これを始めた頃は優雅であつた。しかし子供たちが成長し、親たちが増々多忙になつてくると、勝手なもので、夫婦二人だけの重労働の感があり、そこで転居の機会に動物たちも親戚に引きとつてもらい、その重荷から解放されたのである。

四このような団地サイズ住宅に転居してのプラス面の指摘は、久々の引越しに伴なう解放感、新しいものへのめざらしさ、現状を肯定しようとする心理によるものであり、中古の一戸建住宅のマイナスイ

かりをとりあげて対比した感想で余り客観性はないかもしれない。日本の庶民一般が、団地型住宅を脱出して一戸建庭つき住宅の獲得を生涯の夢とする本当の理由や動機を、この際じっくり考えてみるべきかもしれない。

(1)限られた空間の中に居間、食堂、台所など、3LDKを基準に便利に配置し、五階建てで三〇戸分が何棟か建っていて、全体が共同生活の団地という構造をもつが、まずお互いに連帯感を生出すものではなく、以前からの知合いが近くにいるも自分の体験から親しく交流することが相手のプライバシーを侵す迷惑を予測し、反って訪問したりしないものである。古き時代にみられた長屋の人間関係の形成にも不当であり、新たな人間関係の形成は一層困難である。

(2)企業、学校などの集団の人間関係が形成されやすい組織体からマイホームに帰着し、休養するには機能的ではある。小さくても庭のある家―「家庭」というコトバの由来か―のような寛ろぎが得にくく、何となく足が地につかなかった。子供を叱ったり、夫婦げんかと思う存分やることも団地では困難であり、反ってそれによって非行少年や離婚家庭がふえる原因となる。だからといって、高額の住宅ローンで一戸建住宅を建てても、借金の返済のための家計の切りつめや、通勤の疲労でトラブルはさけられない。

住宅問題の背景には、土地問題から発して極めて根深いものがあり、その弊害は、日本の家族、教育をはじめ、人間関係に広汎な影響を及ぼしている。私の場合、子供たちが成長して独立し別居するようになれば、今の住居でも若干の余裕を生ずるかもしれないという期待もある。何年かのちに、この種の住宅に住んでみての経験から、どう

いう評価をするであろうか、もう少し時間をかけて団地型住宅を体験してみる必要があるようだ。

(静岡大学法学部教授)

日本舞踊ひと筋 (下)

西崎 祥

(柏原)

私が、今は亡き初代西崎緑を生涯の師として現在まで、曲りなりにも踊りを学び続けてこられたのは、十八歳になっばたかりの若い時期に、念願叶って弟子となり、「我が師を得たり!」という感動を味わい、そして突然の別れを迎えるまでの、わずか二年間ではあったが、その間に、芸道の厳しさと、すばらしさを学び、その後も師が果せなかった夢と理想を追って歩んできたからにはかならない。接した期間が短かっただけに、その印象が、より強烈で神秘的に思えるのかもしれない。

初代西崎緑のこと

日本舞踊界で、先生は豪華な花のような存在であった。今でいう「才女」という言葉が一番ぴったりする方で、我々は、その門下生というだけで、恵まれた人間として大きな誇りを持つことができた。舞踊界きっての気風の良さは、今もって語り草となるほどであったし、



初代 西崎 緑先生

頭の回転の速さ、音感の鋭さ、振り付けの才能はまさに天才的だった。書いて良し、喋って良しで仕事の依頼は多く、従って交流も広範囲にわたって盛んだった。またNHKの人気番組「とんち教室」のレギュラーとしても全国的に知名度が高く、その才智は誰しも認めるところであった。

それに、五尺四寸という、女性としては立派な体格で、舞台の役は殆どが立役であり、女心を震い立たせるような魅力がそなわっていたので、一般のファンの他、芸能界・花柳界にまで品^{ひいき}買が多かった。また舞台以外では、最も女っぽい繊細な神経の持主で、女性として可愛らしいところのある方だった。その上、大変な情熱家でもあったので、華やかなロマンスの噂さも絶えなかった。

また門下生は全国各地に及び、精力的にとび廻っておられた。そして大勢の生徒一人一人にまで細かい思いやりを抱いて下さったので、それぞれの生徒が先生との強い絆でかたく結びついていった。若いお弟子が多かったので、恋愛問題・結婚問題・家庭の事情や悩みごとまで、女同志として、共に歎び共に泣き、何事も真剣に相談にのつてくださった。歿後二十五年経った今も、ご命日には墓前に並べきれないほどの生花が供えられていることから、生前の先生のお人柄が偲ばれるのである。

厳格な稽古の日々

田村町にあったお稽古場には、私のように地方から先生を慕って入門する人が大勢いた。東京では、これぞという立派な家柄のお嬢様ばかりで、お稽古場は美しい花園のように華やいでいた。しかし反面、先生の稽古の厳しさは、とても言葉では表現出来ぬほどで、身も心も縮みあがる思いであった。先生の歿後も多くの先生方にいろんな稽古を受けてきたが、あのように厳格な稽古は、一度も体験していない。それだけに年月が経てば経つほど、その有難味がわかり、今では懐しい思い出となっている。

まず稽古場に近づくと、先生が在宅で稽古をなさる時は三味線の音がきこえてくる。きこえない時は代稽古なので、少し気が抜けるが、内心ほっと安心する。ところが三味線の音がきこえると胸はドキドキンと高鳴り、足はすくみ、逃げ出したくなる。そんな自分にムチ打って、せっかく入門した以上は、どんなに赤恥をかかされようと我慢しようと、悲憤な覚悟をして深呼吸をし、衿を正して玄関の扉を開け

るのだった。実際に、迷ったあぐり引き返した人もあったという。

先生はまず三味線を持って、古典の初歩から基本を正確に教えられた。特に「間」というものを体で覚えることと、「振」を楷書で完全にマスターすることで、絶対にいい加減は許されない。棒やバチこそ飛んでこないが、それ以上に、きつい言葉でさんさんに恥をかかされる。それが悔しくて、一生忘れられない覚え方をする。また精神面の修業として、踊りを学ぶ人間の心構え・先輩後輩のけじめ・しきたり、そして日常の生活態度にまで口うるさくことをいわれた。

まず、芸以前に人間としての素直さ・純粹さ、几帳面で気が利くこと、甘えや依頼心・自分本位な考え方をことごとく嫌われ、根気強く辛抱に堪えること、誠実で謙虚な努力家であること等を、それはそれは厳しく教えられた。欠点のない人はいない。一人一人に気の付いたことを、江戸前の歯切のよい言葉でぼんぼん悪評される。誰彼なしに、心の隙や性格の欠点をズバズバ見抜かれ、ぼろくそにけなされる。その叱声がだんだん熱気を帯びて激しくなり、稽古場全体の空気はビリビリした緊張感に包まれる。どんなに正しい理由があろうと、いいわけは通用しない。その根性が悪いといって反って叱られる。泣き出す人もいたし、気が弱かったり甘い考えで入門した人は、どんな姿を消していった。それで来なくなる人は惜しくない。どんなに叩かれようと辛抱して努力する根性を求められた。また物を習うにはおごった心が一番いけない。稽古中は自分ほど下手な者はいないと思つて稽古に専念するよう、不断の努力がいつか年功と人格によって芸品が生まれるのだ、と常々おっしゃっていた。

私も多少下地があったために、最初はそのことを指摘された。あま

りにもひどい言葉に、悲しくて悲しくて生きた心地すらなかった。毎回叱られてすっかり希望を失い、絶望のどん底であった。しかし悔しくて情ない思いをうんと味わってよくよく考えてみると、自分では意識してはいなくとも、心の奥の片隅にほんの少しうぬぼれた気持があったのかも知れない。そこまで人の心の中を深く見透して、私の欠点を叱ってくださいる先生の、鋭い感覚と深い思いやりに気がつき、私も志した以上は先生を信頼し、お心に添いたい。些細なことでも先生の言葉をないがしろにして事を始めてはいけないと思ひ当った。そして自分の心をすっかり白紙に戻して、一から勉強し直そうと一所懸命に努力を重ねた。このような先生の敏感な透視力には、全く敬服せざるを得なかった。だから人がお説教されている時でも決して気は許せない。同情などしては、いつトバッチリが飛んでくるかわからない。いつも自分が叱られているつもりで、肝に銘じて聞いているなけれ



『連獅子』を踊る西崎祥＝名流舞踊家公演で

ばならなかった。叱る先生の方も真剣であった。今思うと、そこまで弟子の事を思つて遠慮なく人を叱つてくださったとは、なんと有難い親心であつたらうか。物を学んでいく上で、また舞踊を離れ家庭に入つていった人にとつても、あの頃の先生のごとの数々は、その後どんなに役立ったことであろう。生徒を真剣に愛すればこそ、芸道の精神は決して甘つちよいものではなく、生涯終るまで、行けどもつきぬ厳しい道が続いていることを、絶えずおっしゃつていたのである。

温故知新

先生は『先代藤陰静枝師の活動が、創作舞踊家の起源である』と断言して、最も尊敬なさつていた。そしてその後、続く創作舞踊家として、戦後の混乱の中でいち早く創作舞踊公演を毎年開催して、常に意欲的な企画で、大作を発表されていた。また日本舞踊の良さも創作舞踊の価値も充分知りつくされていたので、先ず大衆にアピールして観客を増やすことが先決だと、身近な民族舞踊を取り上げ、それを現代感覚でアレンジして、都会的でセンスに富んだ振り付けをなさつた。大衆的というのはレベルを下げるのではなく、観る人に共感を与え観客の支持を得て、はじめて芸術として進歩するというお考えからであつた。

しかし生徒には徹底して古典舞踊を叩き込まれた。このことはスポーツでも建築でも書道等でも同じことであるが、新しい研究のためには先ず基礎を完全に身につけること。古典は、その訓練と保存のために、一日たりとも欠かせぬ大切なものである。そして現代に生きる舞

踊家の義務として、創作舞踊を作ること。その中の良いものは何十年か経つて古典として残っていく。それが芸術の進歩となり得る。舞踊家は常に、この二つを目標に歩まねばならない。即ち「温故知新」がモットーだと教えられた。

現在レクリエーションとして舞踊を愛している人は多いが、厄介な基礎訓練を省略して、良い踊りができるはずはない。

古典舞踊でもなく洋舞でもない、現代の日本人の踊り―単に創作舞踊とひと口にいうけれども、実際はこれが非常に大変で、決してなまやさしいものではない。まず第一に、自分自身を豊かにすることが大切になる。舞踊表現する技術の練磨と、自分自身を広げ感性を磨く努力が常に必要であり、芸術表現の生命ともいふべき心を充たし深めていくこと。いわゆる踊る人間の中身が問題になってくる。またこのことは、人間として最終目標をどこに置くのか、自分自身の考え方、生き方を創造することにもつながってくる。

突然の先生の死

昭和三十二年二月十八日。この日のことは、まるで昨日のこのように記憶が鮮かであり、私にとって一生辛い思い出として心が痛むであらう。世の中には思いもよらぬことが起きる、ということをはじめて体験した。

舞台芸術として作品を発表するには、秀れた頭脳・豊かな才能のほかに、莫大な経費が嵩む。それがすべて舞踊家一人の負担であるため、公演毎に赤字が増え、先生の苦勞は容易ではなかった。そのため先生は超人的に多くの仕事をなさつた。過勞からくる脾臓の痛み

も、注射で押さえて無理を重ねておられたので、最後は完全に手遅れになった。享年四十六歳、脾臓壊死であった。

入院なさった日がちょうど稽古日で、私達生徒はたくさんいた。二階から先生の苦しそうな呻き声が聞こえ、皆で心配していたが、いつもの様子と違い、あわただしくお医者様が駆けつけ、診断の結果即入院ということになった。間もなく寝台車が来たので、急いで新しいシートを敷き、抱えられて先生が降りてこられるのを見守っていた。先生は稽古場に足を止め、苦しそうな息で『みんな仲良くしてね。』とひと言おっしゃって車中の人となられた。これが生徒達への最後の言葉となった。

しかし先生の死後、醜い内紛が続いてこの言葉は今もって守られていない。先生のことだから、そのような事態になるのは承知で、みっともないことのないようにと戒められたのであらう。リーダーを亡くした生徒達が、生きていくためとはいえ、あまりにも先生の意志に反しているのではなからうか。

そして翌日私は、悲しい二十歳の誕生日を迎えた。

「三月になれば私が責任もって引き受けるから任せておきなさい。悪いようにはしない。それまで山田耕柞先生や奥様に可愛がられるようよくおつかえしなさい。辛抱するのよ。」

そんな先生の言葉を張り合いに、暗れて西崎先生の手元で、踊りに専念する目を目前にしていた私にとって、先生の死はどうしても信じられず、あまりにも悲し過ぎて涙さえ出なかった。一緒に死んでしまいたいと思った。山田先生は、そんな私を見て「そんなに思いつめなくても、また良い先生を紹介してあげるよ。あまり忙しくなくて良い

先生をね。」と慰めてくださったが、私はすっかり全身の力が抜け、頭の中は混乱するばかりで、とてもそんな気持にはなれなかった。この二年間、西崎先生が在ったからこそ、自分をなくして、どんなことも我慢してきた。その先生を失ってこの先、何に生き甲斐を感じて生きていけばいいのか。

私は必死に考えた。——私に踊りを捨てることはできない。むしろ今までより、もっともって夢中で勉強に打ち込みたい。実力をつけたい。もう先生あつての、はなやかな舞踊人生は望めないが、先生から教えられた舞踊信念と情熱を心の支えにして自分自身で鍛え、意志を貫きたい。

舞踊信念の下に独立

三月になって、山田先生御夫妻が引き留めてくださる御好意を振り切るのは心苦しかったが、一人になって思い切り泣き、自分で勉強の方法を考えようと決心した。両親はじめ、誰も賛成してくれない我儘を、生まれてはじめて押し通すことにした。ただ一人姉だけが、私の気持を理解して自分の下宿に置いてくれることになった。

一日全部の時間を自分で使えることが何よりも嬉しかった。まず日大芸術学部演劇科の聴講生となり、演劇に関する知識を学び、踊りや長唄・鳴物などの実技に力を入れ、あらゆる芸能を時間の許す限り見て歩いた。見るものすべてを師として吸収したかった。そして自活のために、舞踊団の仕事以外は、日曜もなしにアルバイトに精を出した。けれども若い娘が目的を持って、都会で一人生きていくには、あまりにも世間の風は冷たく、それまでの私が、いかに両師の手元で温

かく、恵まれていたかということを、はじめて痛感したのだった。その時から、ほんとうの苦勞時代が始まったといえる。まして「強きを助け、弱きをくじく」この日本舞踊界の風習は、無力な私にとって、手の届かぬことばかりが多く、何度も身を引こうかと思つたが、私の舞踊に対する愛情が、それ以上に強かつたればこそ、今日まで遅々とした歩みを続けてこられた。そしてこの年月が、私にとって、どんなに無駄ではなかったか……。

いつの日か、人間としての自分に、いささかなりとも進歩を見出せることを希つて、これからもひたすら歩みつづけた。

(西崎流舞踊家)

アヒルが家族に!!

——育てることは楽しい——

村上末吉

(春日・中山)

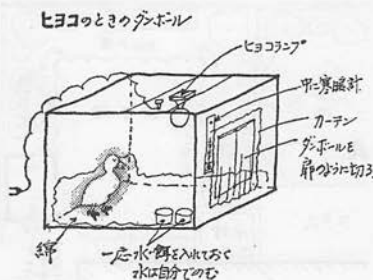
アヒルがわが家の家族の一員に加わつたのは、昭和五十四年十月二十七日のことである。生れたのが十月二十五日の夜らしいので、二日目に入籍したことになる。

当のご本人は全然知らぬことだが、餌つけをしたのが親になるので、我家へ来てから始めて食事にありつた。どうしてこうなったのかその経緯からお聞きください。

その年の夏、東京都江戸川農事試験場へ行って、十月頃一羽欲しい

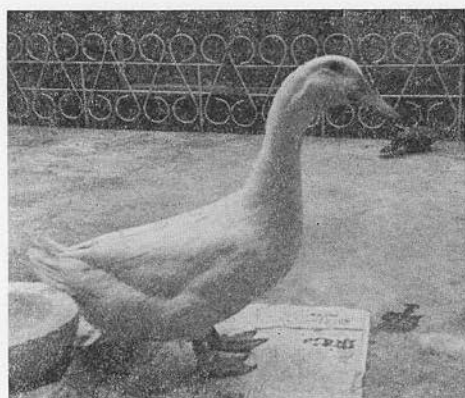


僕はこんなに大きくなりました(一ヶ月目)



旨をつたえ、予約しておいたのである。孵卵機で生れるので、二十六日の朝係の方が確認され、電話を頂いてから、二十七日迎えに行ったというわけである。

アヒルは北京ダックらしく、真白になるという。雌雄は不明とのこと、百五十円で受け取り、ダンボール箱に入れてふろしきに包み、持帰った。



生後約 130 日 これからもう一回り大きくなる

ないが、美しくて、鳴き声もそんなにうるさくないという功罪がある。我家のアヒルはそんなことに一切おかまいなく、ここがわが家であり、人と同族であるかの如く、大きな翼を広げて、ハタハタと羽ばたきをしてご満悦そうである。

アヒルを育ててみて、始めて経験することや、教えられること等が多い。

犬や猫は感情、表情が伝わり過ぎて、却って煩わしいので、鳥の方が気が楽だと思いい、アヒルを選んだ、図のように庭の一隅にアヒル小屋をつくり、水槽で泳げるように考え、小屋と水槽を、フェンスで道をつくり、自由に出入りし、遊べるように配慮した。しかしそれはその通りにならず、アヒ

ルは小屋に入ったら独りでは出てこない。

臆病なことは想像以上で、運動のため、毎朝家を一周するが、少し変ったものがおいてあると、その手前で止って元へ帰ろうとする。アヒルが集団生活で、武器をもたない臆病者であることは、本で読んだことはあった。ヒヨコを飼って

四、五日してから、人のあとをチョコチョコついてくることを知った。写真や絵等でヒヨコが一行になつて親鳥のあとに続いているのによく見かけるが、全てその通りである。特に夜は踵にふれるように密着してついてくる。

○

オーストリアの動物学者コンラード、ローレンツ博士は、『アヒルを育てるとき、外から恐ろしいと思われる者が現われたときは、それを撃退して、安心感を懷かせ、この親を信頼させることが大切だ』と述べているが、猫がブロック塀の上をのそのそ歩いている時、わざと物をなげつけて猫を追いやるように努めるのである。

親としての資格はそれだけではとても果せないことはよくわかつている。親鳥はヒヨコが殻を破る前から、鳴き声で話し合っているということだし、鳴き声で大体のことは判つても、こまやかな感情を交感することはとてもできない。ローレンツ博士は池の中まで入つてアヒルと泳いでいる写真があるが、我家にはそんな大きな池はない。水槽に水を満たして水浴びをさせるのだが、それとてすぐやるわけではないので、手を水の中へ入れて、ジャブ、ジャブ手まねしてやると、しっぽを振り始め、頭から水をかぶるように浴びる。機嫌のよい時は水の中で逆立をするやら、羽ばたきをするやらで、水槽の所にいるわが親もびしょぬれになってしまう。

アヒルは半年程で成長すると食欲が減り、今では鶏に与える粒餌と菜っぱ、それにトマト、ちくわ、こぶ等を少しづつ与える程度でもっと食べてくれないものかと思う程である。中国の飼育で、口の中へ餌を入れ、餌を流し込んで太らせているのを写真でみたことがあるが、

そんなことはとてもできっこない。

しかし生れて半年間はもの凄いい食欲があることに驚いた。餌は粟粒と菜っぱを細かく刻んで水を少し加えて練り餌として、指につまんで食べさせる。その食べっぷりのよさは大変で、餌を食べては水を飲み、飲んだと思ったらまた食べることを、忙しく何度も繰り返すのである。そのせわしいこと、凄いいという外ない。アヒルは水なしでは暮せないの、水だけは欠かすことができないし、ヒヨコの時から水だけは独りで飲むことを知っている。餌も一週間程すると独りで食べるようになる。しかし未だに指で与えると喜んで食べる習性は大きくなくとも治らない。

○

ヒヨコの食欲はそれだけでなく、与える物は何でも食べる。卵、肉類、卵の殻、野菜の煮物、ライス、そば、うどん等々。余り太りすぎると体が重くなり、足が弱くなると注意されていたので、残飯は与えないようにして、穀物、野菜を主に行っている。

また、ヒヨコの跳躍力には驚く。ヒヨコランプがいなくなると、深さ三十程程の蓋のないダンボール箱で飼うことになるが、羽の出ない二本足のヒヨコが、三十程の高さをジャンプして外へ出るのだから困るのである。

アヒルは足が弱いので、とても飛び越えられないと考えるのは誤りで、戻してもすぐ飛び越える。仕方なくまた天井のある、横に出入口を作ったダンボール箱に入れかえるより外に方法はなかった。

犬や猫の子供が、窪みに落ちたとき、親は首筋をくわえて助け出すことができる。アヒルはそんな器用なくばしは持っていない。神は

ヒヨコにジャンプ力を与え、それを補ったと想像するのは誤りであらうか。その証拠に、羽が大きく伸びるにつれてジャンプ力は衰え、ヨタヨタ歩きの足になってしまふ。

ヒヨコが二本足で距け回り、背のびしている姿は、ペンギンを彷彿させる。足の大きいこと、その丈夫さを見ていると、大きくなって、足が弱くなる等とは、とても想像できない程である。

おやじへの手紙

足立 治

(青垣・杉谷)

おやじも近頃大分ボケてきたようだ。ど忘れをする、字を間違える、念を入れているようだ。がチョンボをやる。どうやら年ボケの兆しが出てきたらしい。隠退してから十年になるが、去るものは日々に疎しで、もう二昔も三昔も立ったような気がする。上下は脱いだことだし、潮気も大分抜けたことと思うが、おやじから潮気がなくなったらお終い、時には潮風に当たるといい。

最近白髪もめつきり増えたし瘡せもしたが、太り過ぎの時より反って体調は良いだろう。球も飛ばなくなつたようだが、チョロも愛嬌気楽に歩くだけではないか、要は頭を使い体を動かし生きがいを見つけて年ボケを防ぐことだ。体力造りには余念なさそうだが、予防に勝る治療なしとか、夜の会合などはなるべく控えたほうがいいよ。

義理の悪いことが多少あっても体には変えられないからね。いつまでも万年青年のつもりで第二の人生を働く気持は結構だが体力とのバランスをよく考えて、あまりジョッパらず無理は禁物、年寄の冷水はいいだけだね。ともかく長生きできることは天の恵み、フケ込まぬよう、年ボケせぬようにするのは生活の知恵、どうかお大事になんていわれるのは嫌だろうが、何といっても無病息災体が第一、昭和生まれの定年者も出てくる激動の時代、高齢者社会の渦の中で、おやじにはまだまだ元気で頑張ってもらいたい、俺達も頑張る。さよなら

旅先で受けるその土地がらの人情には、あたたかみを感じる。特に利害関係がともなわないものだけに一層うれいものである。友情またしかり。

(日本電装)

柏原藩の神道無念流

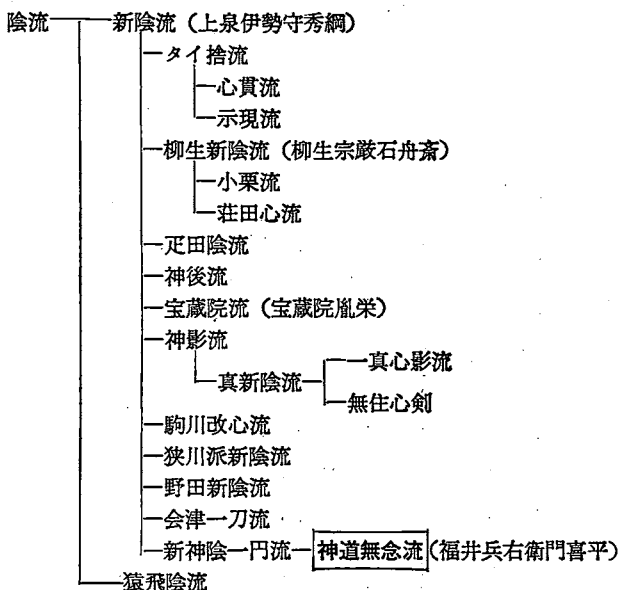
古倉克実

(柏原)

私は一昨年、丹波柏原へ家族とともに亡き父母の墓参のため帰郷しました。多際、古道具屋で神道無念流の免許皆伝の古びた巻物を手に入れました。

文献によれば神道無念流とは、次のようです。即ち

以上の図の通りです。



同文献によれば、享保年間、丹波藩内に、神道無念流の道場があった事だけは記されています。また丹波柏原藩に松井藤兵衛重位という神道無念流の使い手がいたとされています。同人が道場をもっていたかどうかは不明です。

私は郷里にロマンを求めてこの巻物を調べてみたいと思いました



古倉克実氏

た。神道無念流の源流は前の図の通り、新陰流です。

柳生十兵衛があらわした、『月之抄』では、『新陰流の剣は陽の太刀ではない、陰の大刃である。すなわち構えを用いず、構えなきを構えとする』と云う意味のことが書かれてありますが、この『構えなき構え』がつまり、『陰』だと云うことです。下川潮の「剣道の発達」はこれよりも、もうすこしわかりやすく「勝に進む所の一心を指して陰と云い、剣を振る身体四肢の動作を陽とす。而して敵に未だ動作現わさず、只、心の内に思ひ定めしその刹那あたかも水が月の陰を移すのが速かなるが如く。直ちに我心に敵の心、即ち影をうつして、之に對して勝を制するの義によりて、影の流または陰の流と名づけし」。そこで云えば「陰」は「心のはたらき」としてもよさそうです。

神道無念流は幕末、多くの逸材を出した流儀です。史上有名な仇討ちには、どうかするとこの流儀が関係してくるのは興味深い事実です。（この仇討については次回に回します）神道無念流をおこした、福井兵右衛門は元禄十一年（一六八九）生まれです。元禄十一年と云えば、徳川綱吉が「生類あわれみの令」を出した頃です。またその二二年後には新井白石が「西洋紀聞」を書いていました。

私が手に入れた神道無念流には口伝（写真参照）の部分が第三巻に口伝賞書「八欲学立道者必先」として。その次に秘伝口外無用として記されています。その中には、同派は新しい流儀の為、それだけに完成された大刀の極秘がかんけつに多く記されています。その内でも興味深いものを記してみました。

○「転」まろばしとよみます。これはもちろん形而上学的な深い意味があると思いますが、小手打です、すなわち敵の身体のもっとも至近距離にある小手を斬っておとす事が妙であると。

○「切り落とす」「切り落とすと共に直ちに敵にあたる心。受けると直ちにあたる心」すなわち受けてから撃つとか、はずしてから斬るとかせず、撃つとともに受け、はずすとともに斬る大刀筋を云っていると思います。

○「居合」とは馬の脚を斬る事と記されています（馬上の敵に立ちむかう事より居合が生まれたと思えます）

○「立居合」の極秘は足を斬る事とす。すなわち身体をひくくして足に大刀筋をささめ、すこしでも良いから足にきりつける事であります。

○非打十本の中には、相手と立ち向う時には必ず時をおき相手の情報

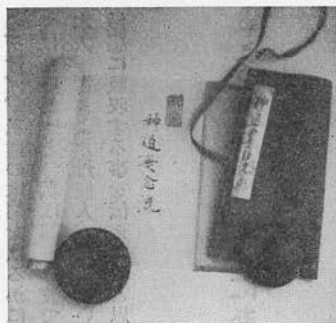
を知りつくす事が必要とされ「会、伝、歩、性、陰、実、家、口、知、能、見、月、駄、劔、神、繩、販、道」以上を調べる事とあります。

⑥「常一知神」この口伝秘伝は実におもしろく戦争のしかたが記されています。一対一の立合ではなく城と城との戦争の事が最後に記されています。

その中で一番感銘を受けたのは「火薬」を使用する事です。（これは兵法に入るのではないかと思われるのですが不明です）

これは前記の松井藤兵衛重位が「暗者」（この意味はいくら調べても不明です）より受けた秘伝をさらに研究して自分なりに考三研究した技法と考えられます。

要するにロケット砲とロケット弾、またはバナム弾に、似た様な武器の作り方です。



神道無念流の巻物

「丸い竹筒を十束あつめ、うるしで固めて砲とし。鉄で作った楕円形の弾を作り、その中に火薬をつめ、穴をあけた鉄板でふさぎ、次に火薬を入れ、又松脂（まつやに）にてふさぎ、火縄をつなぎ発射するものとあり、その力、神のごと」とあります。これが実戦

に歴史上使われていない事は周知の事実です。一六八〇年以後一〇〇年以内記された事は明はくです。もし現実に使われていたら、日本の歴史は変わっていたらと思ういます。

仮に一〇〇年後の一七八〇年にこの秘伝が記されたとしても、松平定信が「寛政の改革」をはじめた頃ですから、完全に日本の歴史は変わっていたと思うのです。

私事のロマンですが、この秘技を柏原藩主が採用し研究を重ねて完成していたならば、日本を制圧する事も可能だったにちがいないかもしれません。私は今年三八才になりましたが、日本人の英知を、丹波人の英知を知り。現在の日本の文明がなぜ一世紀たらずで、世界中の驚異と羨望で見られる高度成長をなしとげたかわかる様な気持ちになってまいりました。

この日本の高度成長のひみつをこの神道無念流の最後の一項に見つけた様な気がします。日本人は昔から世界文化には、きわめて敏感でどんなかはなれた高度な文化でも、すぐさま消化吸収してしまう民族であったと思います。

ある西洋史の著書によると

「戦国時代に日本にやってきたフロイデをはじめとするイエズス会の宣教師たちが一様に驚いたことの一つは、日本人の伶俐（れいり）さだったと。子供達は数日にしてラテン語になじみ、数カ月で驚くほど上達する。それまで彼等が接した国の人間はその二、三日に数カ月を要し、その後はいっこうに進歩もないのに。教義はもちろん、いろいろな知識についても同じことだ。キリスト教を知らないと言う点を

のぞけば、私達の本国をはるかに抜き、おそらく世界一の優秀な国民ではないか」と。私は郷里丹波で得たこの巻物を家宝とし古きよき日本人、古きよき丹波人、を見習い次代にこの日本人のどんな文明でも敏感に吸収する事を伝えたいと思っております。

ふるさとを遠きにありて

梶原 清

(篠山)

国会議員一年生

月日の経つのは早いもので、私が参議院の議席を得させていただいてから早や二年近くにもなった。

長らく運輸省で役人生活を送り、運輸大臣(木暮武太夫先生)秘書官、国会担当参事官なども拝命して、国会はいわば勝手知ったるわが家の庭であったが、今は何といっても八十二万八千六十八票の重みをひしひしと感じずにはいられない。

在官中私は国会のいろいろの委員会に出席して、きつい口調の質問にたびたび答えて来た。答弁に立つことを余り苦にできなかったが、それでも、答弁に立たなくてよい国会議員はいいな、と時々思ったものである。ところが、今は国会議員一年生で勿論委員会にはきちんと出

席しなければならぬし、古参の先生に代って他の委員会にもよく出席する。一昨年の臨時国会では、日本国有鉄道経営再建特別措置法がかかった運輸委員会でも、また昨年秋の臨時国会の行財政改革に関する特別委員会でも連日委員会室に雑話になったが、五、六時間、ときには十時間、ただ座りっぱなしで、同じようなやりとりを聞いているというの、不遜の言い方だが、一種の「行」であるように思えてならない。

朝八時半ぐらいから色々の勉強会があって、国際情勢、国防、教育問題等々巾広い勉



梶原清氏とシンガポールの街

強の機会と材料に恵まれている。自民党の税制調査会での白熱の議論にも加わり、税制の神様といわれている山中貞則税制調査会長の温いご指導も受けている。わが国の前途まさに多事多端な折だけに、一生懸命に勉強して、常に謙虚で、誠実で、そして積極的な大衆政治家として生きていきたいと念願している。

シンガポールに旅して

本年一月、先輩の原田憲、木村陸男両先生と一緒にシンガポールのチャンギ空港の視察に出かけた。

シンガポールは約六一六平方キロ、わが国の淡路島とは同じ国土面積の国である。この国が一、六六三ヘクタールのチャンギ空港の建設を進め、第一期工事の四、〇〇〇メートル滑走路一本が既に完成している。引続き第二期工事を進めていて、二年後にはもう一本の滑走路が完成する予定だが、うらやましい限りなのは、二本の平行滑走路の間隔が一、六四三メートル、案々と二本の滑走路で同時に離着陸ができることである。

このチャンギ空港は計画し始めてから僅か数年しかかかっていないが、わが国の関西新国際空港（私が関西新国際空港建設促進議員連盟の事務局長、原田憲先生が会長）は市民団体の反対も強く、調査をはじめってから既に十四年、未だに設置位置の確定さえしていない。大阪湾のあの深いところを埋立てて建設しようというのに、空港規模は僅か一、二〇〇ヘクタール。二本の平行滑走路の間隔も僅か三〇〇メートルの計画で、到底同時離着陸（八〇〇メートルが限度）はできない。世界第二の経済大国日本が、果してこのようなことでもいいのかど

うか。

僅かの時間をさいて市内を視察したが、端的にいうと、「青年の国シンガポール」をひしひしと感ずる。大変なビル・ラッシュ、写真で見るとような中国風の軒並みがシンガポールから姿を消すのに何年もかかるまい。さてわが国は……としみじみ考えされたものである。

ふるさととは遠きにありて

ふるさと丹波人の念願している国鉄福知山線の複線電化は、大阪―宝塚間が昨年四月に完成した。引続き鋭意工事が進められており、目下のところ、広野までの複線電化を五十九年度、篠山口までの複線工事と城崎までの電化工事を六十一年度までに完成する計画になっている。国鉄財政が極めて厳しく、計画どおりに完成させることさえ困難な状況なので、私の責務として今後とも懸命の努力をしてまいりたい。

いずれにしても、数年のうちにわが故郷に都市型の電車が走ることは間違いない。大阪、神戸への所要時間もぐんと短縮され、丹波が大都市通勤圏になることも間違いない。そうだったときの丹波の姿がどうなるか、私はこれが心配である。絶対に乱開発は避けてもらいたい。木が生えていた山に、家を生やさないでもらいたい。緑の、のどかな、そして活力があり魅力のある古里作りをしていただきたい。丹波十町がそのために立ち上っていただくことを心から希い願っている。

ふるさとの山に向ひていふことなし

ふるさとの山はありかたきかな（啄木）

（参議院議員）

スーダン民主共和国の現状と将来性

若森 敏郎

(山南)

はじめに

昭和五十六年は日本の国際収支の黒字が問題化した年である。米国をはじめ、EC諸国は日本に対して、自動車をはじめとする有力商品輸出の自主規制を強く求めると共に、日本が更に輸入の門戸を開放することを要求している。

また、このような日本経済の発展は、日本が防衛の「ただ乗り」をしているためだとの論議も根強い。

このような情勢にあつて、日本が西側諸国と協調して行くためにはある程度の防衛支出の増強は止むを得ない措置である。

しかし、日本が自由陣営の安全のために受持つことのできる二層効果的な戦略は、エジプト、パキスタン、トルコなど西側防衛の接点に位置する国々に対する援助の強化である。このことに関係各国も最大の関心を寄せており、このような協力関係に対する日本の努力は、貿易摩擦解消の要因となることは疑いないところである。

ここで援助を強化すべき国の一つにスーダン民主共和国がある。この国は今までエジプトのサダト大統領の強力な指導のもとに、エジプ

トと一体の動きをしてきた。しかし、サダト大統領亡き今は、スーダンを西側陣営に引留めておくためには、この国に対してエジプトとは別個の援助をすることが必要と思われる。

私は昨年九月三日から二十四日までスーダンに業務出張を命ぜられ、日本からのプラント輸出の可能性について種々調査をしてきた。

帰国間もない十月六日にサダト大統領が凶弾に斃れようとは、当時夢想だにもしない出来事であった。

このような状況になると、スーダンの現状と将来性について、にわかに日本国内での関心が高まつてきた。

ここに調査の一端をご報告し、会員の皆様方の御批判を得たいと思う。尚、昨年十二月七日付日経産業新聞にも関連記事を発表していたので併せて御覧いただけるならば光栄である。

一、スーダンの一般状況

スーダンは一九五六年一月一日に英国とエジプトの共同統治から独立した国である。

しかし、最初の十七年間は往時アラブ地方から侵入した北部のアラブ系住民と、南部のアフリカ系原住民との間の対立抗争が絶えず、見るべき経済発展はなかった。やっと独立国としての基礎が築かれたのは一九七二年にニメイリ現大統領が政権を掌握してからである。

しかし、一九七三年十月にはじまった第一次石油危機、これに引続く一九七八年の第二次石油危機は、スーダンの経済開発に深刻な打撃を与えた。幸いにも、一九八〇年八月にスーダン南西部に石油の埋蔵が確認され、日量二五、〇〇〇バレルの製油所を一九八三年までに建

設する希望がもてるまでになった。

現在、スーダンには年間約五億ドルの外貨を石油輸入のために消費し、また、砂糖の国内消費四〇万トンを充足するために毎年二億ドル相当の砂糖を輸入している。

これに加えて、日用雑貨に至るまで輸入にたよっている。

これに反して、輸出は僅かに三億ドルにすぎず、これは主として綿花、落花生、植物油などの農業生産物である。この様な状況のもとにあっても、日本製の自動車は国内に溢れ、首都カルツームの商店街には、日本製の電気製品が所狭しと並んでいる。これらの日本製品は直接日本から輸入されたものではないようであるが、一般民衆に対しては、「日本は品物ばかり売りつけるが一向に経済援助も技術協力もしてくれない」との悪印象を与える結果となる。

今でも、スーダンには以前の宗主国である英国の影が色濃く残っている。



ワド・メダニのホテル前での著者

大統領府をはじめとして、官庁の建物は以前の英国統治時代の建物がそのまま用いられている。また、英国もかなりの数のコンサルタントをスーダンに派遣して、す

べての面での指導を行なっている様子である。

二、スーダンの地理

スーダンはエジプトのすぐ南に位置する国で面積は約二五〇万 km^2 、わが国の約七倍の広さをもっている。総人口は僅かに一、八〇〇万人で、国土は大部分がナイル河とその支流からなる広大な平原である。エチオピアの山岳地帯を水源とする青ナイル（これは洪水期以外は水はよく澄んで美しい）と、アフリカ最大の湖であるビクトリア湖に源を発する白ナイル（洪水期以外でも白濁は消えない）との合流点に首都カルツームがある。隣接するカルツームノース、オムズルマンを併せて、人口約一〇〇万人である。他の諸都市も大体ナイル河に沿っており全人口の約四〇％がナイル河と共に生活する。

カルツームから北はヌビア砂漠にたなり一年中ほとんど雨が降らず、三八℃を越す暑い乾燥した地域である。カルツームから南にナイル河をさかのぼるに従って、雨期と乾期がある。雨量は年間一、〇〇〇ミリ以上で、地勢は熱帯性ジャングルを形成する。

国民は往時の侵略者たるアラブ系が今でも優勢でイスラム教が国教であり、アラビア語が公用語である。

三、スーダン経済の現状

先にも述べた如く、スーダンは国全体が大平原であり、豊かなナイル河の水をもっている。農業が産業の主流である。英国の統治時代に主として綿花栽培のために建設されたゲジラ地区灌漑域は面積八、四〇〇 km^2 ある。これはナイル河からの取水によって計画的に灌漑

された一大農場である。この農場に取水するためのダムは堰長5kmあり、毎秒一五〇トンの水を農地に供給する。農場の規模は、われわれの出身県である兵庫県の面積が八、三三〇km²であるから、これより更に広い一面の平坦地を想像されたい。

ついでに灌漑計画について言及すると、スーダン南西部は白ナイルが幾条もの支流に分かれて一大湿地帯を構成しており、この広大な地域も、現在はパピルスなどの生い茂るにまかせた一大原野として放置されている。

この湿地帯を総延長二八〇kmの運河によって干拓する計画が現在着々とすすんでいる。この工事が完成すると、大阪府・京都府・兵庫県の面積を合せたより更に広い一六、〇〇〇km²の農地が完成する。これと共に今までは自然の蒸発にまかされていた年間五〇億トンの水が有効に利用されることになる。

このほかにも、大小幾多の灌漑計画がありこの計画実現のためにサウジアラビアなどからのオイルダラーの投資を希望している。

灌漑の進展と共に設備が増強されるものに砂糖の生産がある。砂糖一〇万トンを生産するには、砂糖きびの作付け面積一二〇km²を必要とする。スーダンは最終的には年産約九〇万トンの砂糖生産を見込んでいる。

しかし現状では、どの農場も管理がよく行きわたらないこと、肥料の不足、機械化のおくれなどのため生産性は上っていない。

また、綿花栽培の裏作として落花生・大豆・小麦などが栽培されているが同様の理由であまり収量は上っていない様に見受けられた。

工業の現状は農産加工業が若干行なわれているが、大々的なもので

はない。また、カルツームの近郊に紡績と綿布工場があるが現状では電気の供給が充分でなく、木綿糸は質が悪い。綿布も国内の需要を満たすことも出来ず、有望な輸出品に成長するには年月が要る。

鉱物資源の探査は漸く始まったばかりである。相当良質のクローム鉱床があるが現地精錬が出来ず、鉱石のまま輸出されるために有望な輸出品となり得ない。

四、日本との経済関係

一九七八年の数値では、日本は綿花三、〇〇〇万ドル、ごま一、四〇〇万ドルをはじめ、アラビアゴムなどの原料産品を総額五、八〇〇万ドル輸入した。

日本からの輸出は重機械工業産品四、七〇〇万ドル、機械類三、六〇〇万ドル、軽工業製品三、五〇〇万ドルなど総額八、三〇〇万ドルであった。貿易バランスで見ると、スーダンは二、五〇〇万ドルの入超である。この傾向は今後継続すると思われる。

この様にスーダンの現状は経済規模も小さく、日本からは遙かに遠い国である。しかし一面に広がる平原と、豊かなナイル河の水を見るとき、アラブの国々がこの地をアラブの穀倉にしようと意図している様子がよく理解できる。

この農業国としての潜在力こそ、スーダンの最も最大の強みである。この農業開発が大々的に始まる時、日本から農業機械・サイロ建設・搾油機械などの輸出の道が開ける。

また農地拡大のために灌漑設備の拡張が必要である。このための土木工事に対しても日本は技術を提供し得る。

また、一九八〇年の石油の発見は、この国の発展に曙光を与えるものとして注目される。

現状では埋蔵量・年間採油量など公表されたものはないが、米国のシエブロン社はスーダンから日本の一・五倍の面積に相当する五七万km²の石油鉱区の権利を与えられ、現在営々として開削を行なっている。一説によると、スーダンはサウジアラビア以上の石油大国になるだろうといわれている。

五、インフラストラクチャー（公共投資部門）の現状

前述の様にスーダンは農業大国としての潜在力、石油大国としての潜在力を併せもった前途洋々たる国である。しかし、現状では公共投資はまことにおそまつ極まるものである。

幹線道路はやつと一、五〇〇kmほどが舗装され、スーダン唯一の国際商港たるポートスーダンと首都カルツームまでの輸送の大動脈は完成したが、他の幹線道路の舗装はこれからで雨期には路面冠水や、路面軟化のため屢々交通が途絶する。鉄道は英国が作った主として綿花を運搬するための狭軌鉄道が今も使用されている。但し、雨期には道床が洗掘されること、レールも細いことなどのために到底大量輸送機関としての務めは果せない。

電信・電話もお粗末で、首都から地方都市への通話は殆んど不可能といつてよい。

首都カルツームの電話は現在日本の技術援助によって着々と整備されつつあるので、その中に面目を一新するであろう。

しかし何といつても不便の最大なるものは首都カルツームにおいて

すら、一日四時間しか電気が来ないことである。この原因はスーダンの全設備出力二五〇万kwの約半分を受持つロセイレス水力発電所が昨年の大洪水による泥流によって機能を喪失したことによる。

ダムへの堆砂は一朝一夕に除去出来るものではないので、ここ当分の間は時間送電が解消しそうにない。

この様な電力の供給不足は、カルツーム周辺の工業団地の生産を停滞させ、民生の安定を大きく脅かしている。

スーダンは国全体をカバーする電力系統をもたないで、カルツームの電力不足を他の系統からの余剰電力によって解消することは出来ない。また、それぞれの地方電力系統も慢性化した電力不足が続いている。

六、スーダンに対する日本の経済援助のあり方

スーダンは既に見たように洋々たる将来性を持ちながら、現状ではまことに貧弱な状況にある。従つて、今の中にスーダンのニーズに対応した経済援助の手を差延べておくことが、将来スーダンが石油大国となった時、日本がより有利な地位を占めるために是非必要なことである。

また、米国やEC諸国が、中東の安定のためサダト亡き後のエジプトやスーダンを西側寄りに保つておくための努力は並々ならぬものがある。一方、日本は米国やEC諸国との貿易摩擦解消のためにも、今後共発展途上国に対する経済援助・技術協力を強力に推進する必要がある。

この様な状況を勘案するとき、日本がスーダンに対する経済援助・

技術協力を強化することは、日本と先進諸国との貿易摩擦解消の目的からも望ましい措置であると思われる。

日本は一九七六年に三〇億円、一九七七年五〇億円の円借款をスーダンに供与している。

これは、ポートスーダンとカルツーム間のハイウェイの完成と、スーダン国鉄の輸送力増強に大いに役立っている。しかし、これらの援助は全体計画の中に埋没し、日本からの供与物件としてのモニュメントにはなっていない。

日本製品はスーダン各地に溢れており、これがもとで一般民衆の間に不満が醸成されつつあることは先にも紹介したが、特に最近、中国の供与による市民ホールや、韓国の供与によるホテルがカルツームに建設されるに及んで、日本からの供与物件としてモニュメントになるものがないのが淋しい。

消費材としての日本製品は今後スーダン各地に充満して来るであろうから、これからは援助の形態に変化をつけ、モニュメントとして残るものに対して援助をする様に配慮することも必要である。

この度のスーダン訪問において、スーダン政府は経済援助を要請する主な項目として、

- (一)首都カルツームに対する一〇万kwの石油火力発電所の建設
- (二)日量二五、〇〇〇バレルの石油精製設備
- (三)砂糖生産設備の更新
- (四)砂糖生産に伴い発生する廃糖蜜を有効利用するアルコール生産設備の建設

を掲げた。また、無償援助を対象とした要求もかなり出された。これ

らは総べて、スーダンの経済発展のベースをなす設備である。

むすび

既述のようにスーダンは農業国としての将来性の他に、産油国としての将来性が約束されるに至った。

豊かな将来性を持ちながら、現在はインフラストラクチャーの不備・電力不足・資金不足が災いして各部門共に計画の進展が具られず経済発展が停滞している。ここで、もし、日本からの資金供与が許されるならば、プロジェクトの優先順位は論ずるまでもなく、次の各号によって決定されるべきものと思われる。即ち、

(一)プロジェクトの完成が広く民生の安定に貢献し、緊急性の高いものであること。

(二)インフラストラクチャーのベースを構成するものであること。

(三)産業発展の原動力となるプロジェクトであること。

(四)プロジェクトの完成が広く一般民衆にアピールすること。

(五)日本から設備の供給が容易であり、且つ長期にわたり波及効果が大きいこと。

(六)投資規模が適当であること。

この様な選択規程に立って選定され、日本からの資金供与によって実現したプロジェクトは、必ずやスーダンの発展に寄与するものとなるであろう。これによって、日本は将来スーダンが産油国となった時、より重い地位を約束されるであろう。また、このことが将来日本からのプラント輸出の増大につながることは間違いないところである。

今回の私共のスーダンにおけるプロジェクト発掘調査が日本からの資金供与によるプロジェクトの完成につながり、これが将来、日本からのプラント輸出につながることを希望するものである。

日本は、今や、世界有数の経済大国となつて日本製品の進出が先進諸国との貿易摩擦を惹起するまでになつて来た。反面、日本の防衛費支出過少が西欧諸国から批判されるに至つてゐる。この様な情勢の中で、日本が先進諸国間との協調を保つて行くための一つの方策として発展途上国に対する援助の拡大が挙げられる。

従来、わが国の援助は東南アジア地域に偏りすぎたきらいがあるが、これからはもっと範囲を広げる必要があるのではないか。

昨年十月六日、エジプトのサダト大統領が凶弾に斃れて以来、これまではエジプトの陰にかくれていたスーダンの西側陣営に対する去就が問題になつてきた。

ここで日本がスーダンに対して応分の経済援助を行ないこの国の自立を助けるならば、西側陣営から拍手をもつて迎えられ、貿易摩擦解消の一助となるであらう。またスーダンの将来に対して日本の地位を不動のものとするにもなる。まさに一石二鳥の効果を生むことになるのである。

このような観点から私はスーダンに対する経済援助の拡大を要望するものである。

会員の皆様の御賛同を得られるならば幸甚である。

(昭和五十七年一月四日、ニューカレドニア出張を前にして。日本プラント協会技術部員)

『俳句』『氷上郡』(抜粋)

沢木欣一

畦豆の葉に秋風や氷上郡

栗のいが妻木置場を満したる

子を連れて来し猪跡と教えらる

こけおどし自動装置の威し砲

杉山の樞に捨てあり盆のもの

秋柳橋のたもとの古本屋

新絹をかけてかがやく手織機

鮎喰ひに但馬へ一つ峠越え

鮎喰へば山間の町日暮れたる

高僧の隠れ遊びや鮎の宿

——俳誌風・十一月号より——

氷上農業高校女子チーム、第13回全国高校

バレーボール選抜大会の準決勝に進出!!

高校バレーボールの全国大会がこの3月25日から30日まで東京体育館で開かれ、わが春日町黒井の氷上農業高等学校チームが女子部の西近畿代表で出場した。東京の八王子実践、大阪の四天王寺チームと共に日本三強の名を馳せ、遂に準決勝に進出したが惜しくも敗れた。堅い守りと快速の切り返しを武器に善戦し、一躍日本全土に氷上農高の名を高めた。監督Ⅱ高見論、マネージャーⅡ谷瀬友子、チームⅡ①三好邦代②白谷智美③嶋田美知④石掛美知代⑤川岸万希子⑥大島深雪⑦尾関千加子⑧北畑優子⑨坪田浩代⑩浅田直子⑪若新都子⑫稻場環。

新会長に伴仲氏選ぶ

盛会の五十六年度総会

五十六年度の総会は、祝寿会に引きつづき共済会館で行われた。先ず足立三治会長が議長席につき、経過報告ののち、決算案を小谷理事が説明、承認され、ついで役員改選の議事に入った。その結果、新会長に伴仲信次、新副会長に村上末吉、渡辺隆男の三氏が選ばれて満場一致で決定、足立三治前会長、渡辺金三、松山幸逸前副会長、植村章子前理事の四氏を顧問に推挙して円満裡に総会を終った。

そのあと懇親会に移り、新会長伴仲氏、つづいて新副会長村上氏の就任挨拶のあと、来賓の石井水上町長、細見春日町助役から、ふるさとの近況報告があり、会員の意見交換など、和気あいあい盛會裡に散会した。新任役員次の通り（順不同・敬称略）。

〈名誉会長〉有田喜一

〈顧問〉上山頭、西川政一、小谷正雄、小林

武治（以上留任）、足立三治、渡辺金三、松山幸逸、植村章子（以上新

任）

〈会長〉伴仲信次（新任）

〈副会長〉村上末吉、渡辺隆男（以上新任）

〈監事〉須原清（留任）、吉住重造（新任）

〈理事〉永井常資、山中一朗、前田和市、荻野武、足立正、小谷正己、足立誠

一、木村つた江、常岡幹彦、高見嘉都司、村上大憲、足立かをる、谷垣

正雄、田英夫、足立徹、上田鉄太郎、芦田律子、山本清士、坂上勝朗、

小田富士夫、小川晴通、田中篤郎、

下中昭男、秋元多美子、西崎祥、足

立謙悟（以上留任）、芦田重秋、小

杉武生、藤田正雄、若森敏郎、足立

和巳（以上新任）

◇

総会出席者（順不動・敬称略）

（来賓）

水上町長、石井敏秋、春日町助役、

細見新

（会員）

有田喜一、足立三治、伴仲信次、松

山幸逸、渡辺金三、須原清、坂上勝

朗、常岡幹彦、上山頭、山内隆行、

村上末吉、吉住重造、田中寛、若森

敏郎、植木伍郎、足立正、芦田律子、

大野善三、植村章子、芦田重秋、小

田富士夫、福島輝子、有田毅、田中

篤郎、佐々木盛雄、秋元多美子、谷

垣正雄、梶原やす子、木村つた江、

上田鉄太郎、藤田正雄、足立和己、

頼沢博、藤尾ちあ子、波多洋三、小

杉武生、林田孝子、小谷正己、菱田

ふみ子、荻野一雄、永井輝江、桂一

朗（以上四十四名）

ドライブとゴルフの会

房総ドライブとゴルフの会は五十六年六月十二日行われた。当日は低気圧の通過もあって不安定な雨の日であったため、参加者は残念ながら予定より少なく左記十八名に過ぎなかったが、予定通り七時すぎに九段坂下をバスで出発、ゴルフ組は真名カントリー倶楽部で下車、ドライブ組は勝浦海中公園を見学、大多喜城、笠森観音を見たあと長柄ふる里村センターに到着お目当の建造物について伴仲氏より詳しい説明を聞きつつゴルフ組と合流、宴会に入り賑やかに談笑裡に再びバスの

大多喜城の前庭の一行



客となって東京へ帰って来た。楽しい会であったからと、この種の催しを今後も続けて欲しいとの希望が述べられていた。

参加者Ⅱ（ゴルフ組）田中篤郎、近藤勇夫、足立正、新町親則、広瀬五男、松下文雄、安田功、岡林逸男、橋爪忠、伴仲

囲碁同好会成績表〈左勝・右負〉

月	日	56—8/8	10/17
足永	立塚	4—5	4—3
中	井	1—6	—
松	山川	2—2	—
前	田	1—3	3—2
藤	中	2—5	3—3
下	沢	5—2	2—4
三	林	2—6	3—3
小	上	5—2	4—2
坂	畑	1—3	3—1
川	島	4—3	1—4
新	口	6—0	—
谷		3—0	4—2
		—	1—0

昭和五十六年中に行われた氷上囲碁同好会の成績は次の通り。
開催数が少なく、その上出席者も振わず、

氷上囲碁会の成績

信次、同和子、足立謙吾（ドライブ組）
須原清、木村つたゑ、常岡幹彦、渡辺金三、同夫人、松山幸逸（松）



囲碁会風景（8・8）

淋しかったが、会員中の同好者は巾広くあるので進んで参加を望みたい。希望の方は、足立正、松山幸逸まで申し出られたい。段級を気にされずにね。（松）

昭和56年11月15日

昭和56年度 会計報告書

自昭和55年10月1日至昭和56年9月30日

関東水上郷友会

収入の部			支出の部		
科	目	金額	科	目	金額
繰越金	繰越金	858,703	出版費	出版費	733,627
					山ざる12号印刷, 製本, 外諸掛り
会費収入	会費収入	374,000	通信印刷費	通信印刷費	150,670
					総会通知及び懇親会通知他印刷及郵送料
広告収入	広告収入	420,000	支払手数料	支払手数料	9,450
					振替貯金払込手数料88件
寄付金	寄付金	191,000	総会費	総会費	253,268
					S55.11.16 於青山ダイヤモンドホテル総会諸費用
受入手数料	受入手数料	350,000	長寿祝金	長寿祝金	81,000
					長寿者祝賀彫6ヶ
総会会費収入	総会会費収入	170,000	会議費	会議費	90,000
					役員会, 山ざる編集会議他
雑収入	雑収入	26,235	慶弔費	慶弔費	60,730
					小谷正雄氏文化勲章受章祝会, 荻野定一郎氏花輪, 弔電等
			繰越金	繰越金	1,011,193
					次期へ繰越金現金 110,269 定期預金 886,760 振替貯金 14,164
合計	合計	2,389,938	合計	合計	2,389,938

柏陵同窓会

昭和五十六年度柏陵同窓会東京支部会は九月十二日、日生劇場八階、バイキングで開催された。五時、岡吉明氏の司会で始まり、支部長有田喜一氏の挨拶、副支部長梶浦浩一郎氏の乾杯で懇談に入って、幹事村上末吉氏の経過並びに会計報告が行なわれた。

旧友共に若き青春時代を語り、時間の過ぎるのを忘れたなごやかな集りであった。

全員写真撮影を終り、中学校、女学校、高等学校の各校歌を斉唱、佐々木盛雄氏の音頭で万才を三唱、植村章子副支部長の閉会挨拶で散会した。

時に七時三十分、参加者は七十五名の多数にのぼり盛会であった。(村上記)

〈写真Ⅱ 記念撮影の盛観〉



柏陵第三回クラス会

さる五六年二月二日、柏高第三回、併中第一回の同級会が、夕食会、宿泊、都内観光バス遊覧をふくむ一泊二日の日程で催された。

今回は、東京支部の主催（足立正、渡辺貴美子、小糸イキの各氏が世話役）で関西から一〇数名の同級生を招待する形で計画された。二月二日、夕刻から池袋の「ぶぐ料理・千葉」（級友の千葉淳子御夫妻の経営）に三五名が集合して、食事と談話を楽しみ、内一七名がサンシャインシティのプリンスホテルに宿泊、母校にお勤めの永井壮一郎氏らを囲んで旧交を温め、歓談した。

翌朝、三〇年前にもなる高校修学旅行を再現しようと二四名が観光バスにのった。東京にお勤めの木下昇治氏のお世話になる。明治神宮、NHK、東京タワーなどの都内名所めぐりは、在京の同級生にとっても楽しかったようだ。夕方の新幹線で関西方面に帰る級友を東京駅で見送った。発車まぎわまで、手をふって別れを惜しむ風景は、大都会で何年もくらしている人たちを含めて、少しも変わるところのない丹波人の氣質を示すもののように思われた。

この柏高第三回生同級会は、本年五月一日、大阪支部の主催で大阪市内にて開催を予定。東京支部の内輪でも、忘年会など年数回の会合がもたれており、同級生はもちろん、飛入りの郷友の参加を歓迎しております。（一九八一・一二・一二一坂本記）

本の紹介

『篠山練兵場』

〈写真〉池袋・千葉にて

昨年の秋である。東京・池袋の書店に『篠山練兵場』という本を見つけた。なつかしい本である。私は大正三年から篠山の鳳鳴義塾に学んでいた。篠山練兵場は篠山歩兵七十連隊の前にあった。

義塾は軍事訓練でも他の中学より厳しく実施していたから、篠山連隊とも極めて関係が深く、軍事教育には必ず連隊から将校、下士官が教官として出張して来ていた。こんな事情だから、私などもこの題字を見ただけで、異常な関心を抱くのである。従って早速買う始末となった。

編集は神戸新聞丹波総局となつて、同紙に

連載したものをまとめたものである。脚で歩いて、関係者から話を聞いてまとめただけに内容は、極めて切実で身につまされる若き日の丹波人の心情をよく語っていて、まことに興味深く読まされる。その多くは軍隊内のあるこれよりも、大陸での惨苦が熱っぽく語られている。その中には現在郡内で指導者として活躍されている人々も沢山登場しており、読物としてもよく出来ている。一読の価値はあろうというもの。四六版、二二八頁、価一、二〇〇円、神戸新聞出版センター。（松）

常岡父子の日本画展開く

常岡文亀「写生」遺作展
常岡幹彦「白の風景」展

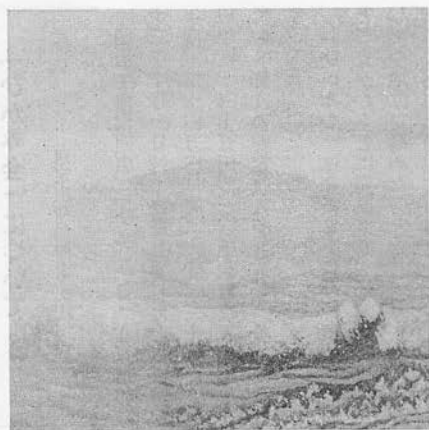
去る五十四年十月に他界した文亀画伯の遺作約五十点と、幹彦氏の近作十七点とを合わせた日本画展が、この四月十三日（火）から同十八日（日）までの六日間、東京セントラル絵画館で開かれた。幹彦氏が二年前から計画した宿望の父子画展とあつて、幹彦画伯の作品も百号三点、五十号二点といった力作の

ほか、これまでにない打ち込みようである。
文亀画伯の作風は、鋭い神経、清澄な感
覚、濃厚な心情が相俟って絶妙の雰囲気醸
し出す。戦後の日本画壇の流れに同調せず、
近代日本画の本流を踏まえて純粹孤高な画境



常岡文亀
鉄仙

を貫いた第一人者といふべきであろう。特に
晩年の作品がすばらしく、その渾厚な味わい
は近代の日本画壇にも比肩する者がいない。
一方、幹彦画伯の作風は大胆で強くしかも
熱情的である。限られた画面の中に広大なひ
ろがりを求める。やや荒いタッチのうちに生
気の躍動を包もうとすることくである。父の
『静』に対して子はまさに『動』であり、対
照的な画境を展開する。とはいえその裏面に
は、やはり父子相通するものがあるようであ



常岡幹彦
驟雨

る。幹彦氏の近年とくに白を基調とした画風
の意図するものは、おそらく父晩年の清澄渾
厚な画境に向かうものであろう。父子の画は
静と動との両極から常に同じ美意識で描かれ
ているようである。

会場Ⅱ中央区銀座二ノ八・銀座貿易ビル8
F・東京セントラル絵画館・電(五六四)〇
七一一午前十時から六時半まで。

日本舞踊「西崎祥の会」に 御招待

日時・五十七年六月二十日(日)

場所・芝公園・ABC会館

郷友・西崎祥さんので姿、一門の日舞を
心ゆくまでご観賞、ご声援ください。左記に
はがきでお申し込みになれば、特別にご招待
いただけるということです。

〒142 品川区小山四ノ九ノ三・西崎祥舞踊研
究所「西崎祥の会」係

梶原参議院議員も

出席『山ざる会』

昭和五十六年度の『山ざる』会は七月六日午後五時より東京銀座のアサヒビル４Ｆで開かれた。『山ざる』協賛者、寄稿者ら左記の諸氏が参加、自己紹介や郷友会に対する希望など賑やかな会合となった。特に今回は全国区参議院議員に当選した梶原清氏（篠山町出身）が出席して挨拶するなど、会場を盛りあげた。

当日の出席者は次の通り（順序不同）

足立誠一 足立和巳 足立謙悟 足立三治
足立 正 秋元多美子 芦田律子 上田鉄太郎 上山 顕 植村章子 小田富士夫 岡林逸男 小谷正巳 近藤勇夫 坂上勝朗 下中昭男 須原 清 田中篤郎 谷垣正雄 谷口捷 常岡幹彦 永井常資 西崎 祥 波多洋三 伴仲信次 松山幸逸 山中一朗 山本清士 若森敏郎 渡辺金三 渡辺隆男 田中寛梶原 清 橋爪 忠 足立源治 吉住重造

「ひかみ会」について

認定生命保険士 足立 正

明治生命代理店、「ひかみ会」は、昭和五十三年十月一日付で発足しました。以来第一年度、二十四万円。第二年度、三十万円。第三年度、三十五万円と、手数料収入を増やしており郷友の安定収入源となりつつあります。（会計報告参照）

「ひかみ会」は今後も会員の皆様のご協力とご支援のもとに発展させ、郷友の資金源としての地位を高めたいと念じております。従来のご協力を感謝するとともに今後のご支援を切にお願いいたします。生命保険を利用できることは、文明社会に生活するわれわれに与えられた特権的恩恵であるのですが、そのことを心底知る人は多くありません。

アメリカ、ペンシルバニア大学のヒューブナー博士は、ある講演の場で「これほど人々に必要なものでありながら、これほど理解されてはいないものはない。今や大衆に正しい生命保険の認識を促進し、現存する多くの誤った世評を変革する必要がある」。と前おきし

て次の様に語ったことが伝えられています。

「生命保険に加入することは聖なる責務である。人々は愛する家族のために生命保険の価値を認識し、これを不朽のものへと続くべきである。生命保険は不確定を確定にする唯一のものである。」

生命保険は不幸から人々を守るだけでなく、富を生む力を強化してくれるものである。保険料を払い込んだ瞬間に心配から解放され能率が向上する事実是人々に認識されなければならない。

生命保険が確実に、しかも即刻必要な富を造る点は貯蓄にまさるものとぜひ認識されなければならないことである。生命保険はまた有効な投資の性格をもち、富を確保出来る手段になるものである。

生命保険はたくさんの方々の事業に利用出来るもので、このことも広く知らせる必要がある。時は、一九一四年。六十年以上も前のことですが、生命保険についての正しい認識は今でも仲々得られにくいもののようです。今後より多くの人々との交わりを通じて、一人でも多く生命保険についての正しいご認識をお持ちいただきたいものと念願しております。

渡辺紙工業株式会社

創業七十周年を迎う

渡辺泰造氏（水上町朝阪）の創業になる渡辺紙工業が、今年創業七十周年を迎えた。

明治四十五年、泰造翁は当時の農民の疲弊を見かねて、何かよい副業はないものかと思案のあげく、紙袋の手貼り加工を始めたという。以来七十年、今日では日本屈指の製袋業となった。同社を今日あらしめた陰には、現会長・渡辺金三氏（郷友会顧問）の手腕が大きかった。金三氏は数年前から自ら七十年の回顧録の執筆に着手、三月には『紙工業七十年・製袋二十年の歩み』と題して出版、社員に配って七十年の記念とした。

株式会社二玄社は創業三十年

幼少、渡辺泰造氏の事業慾に強い影響を受け、柏原中学時代、篠山出身の下中弥三郎氏の興した出版業（鶴平凡社）にあこがれた渡

辺隆男氏は、戦後鶴白水社に入って出版業を学び、昭和二十七年、二十四歳で独立して二玄社を創業、今秋は三十年になるという。

書道図書・美術図書・自動車図書・月刊C A R・GRAPHIC・哲学書等の分野を専門に出版、各分野で第一級の暖簾を築いた。近年、台北故宮博物院の名画法書の複製にとり組んでいたが昨秋その第一期が完成、この一月には創業三十周年記念と銘うって八重洲ブックセンターで展示会を開いた。つづいて国内各地・海外はパリ、ジュネーブ、ミラノ、ニューヨーク、シドニー、シンガポール等の巡回展がはじまるといふ。

計 報

生駒 篤郎氏（柏原）同氏は、元三菱日本

重工業常務・元三菱ふそう自動車専務で工学博士。昭和五十六年十一月七日肺炎のため熱海温泉病院で逝去された。享年八十四歳、告別式は同十一日、東京練馬区広徳寺で身内と三菱関係の人々だけで簡素な中で行われ、本



会からも献花した。法名は間雲院篤翁宗実居士。同氏は本会顧問で生前は本会の諸会合にもよく出席され、種々貴重な助言を与えられていた。本会を代表して松山幸逸氏が参列焼香してご冥福を祈った。

三浦 巖氏（春日）五十七年一月三十日午後六時、食道がんのため東京都港区東京都済生会中央病院で死去された、享年六五才、告別式は同二月二日午前十時より杉並区の本願寺和田堀廊所で執り行われた。同氏は水彩画会員でパリのル・サロン展で金、銀賞を受賞したこともあり、『山ざる』10号には東京大学をテーマに版画展を開かれた様子を紹介したこともあって、郷友間にもよく知られ、惜しい人材であった。

関東氷上郷友会の沿革

本会は明治二九年（一八八六年）十一月二日、東京神田の料亭において創立の発会式を行なったといわれる。

当時東京帝国大学の学生安藤広太郎（後の農学博士）、同田昌（後の大蔵次官）氏らの奔走によつて結成、会長には旧柏原藩主織田信親子爵、副会長に田健次郎男爵（元台湾総督）が就任。会の目的は、東京における郷土出身者の親睦と友情を深めるとともに、郷里氷上郡の開発発展に寄与することにあつた。以来七十余年、幾多の曲折を経ながらも今まで存続し得たことは、先輩各位の郷土愛のたまもので、とくに井上雅二、矢本平蔵、小谷哲、石橋治郎八氏の功績を逸することはできない。

昭和二八年一月二八日、東京新橋駅楼上の「日本食堂」で戦後第一回の「氷上郷友会」が開催された。百名を超える郷友が喜々として集い、戦中、戦後の飢餓と混乱、生死を生き抜いた郷友たちが、相擁して久闊を叙し、

熱っぽい雰囲気で、ふるさとやありし世代の苦闘を語る感激の大会となつた。

田健次郎会長（昭和五年没）のあと久しく空席であつた会長の椅子は織田信次子爵、安藤広太郎農学博士とひきつがれたが、この歴史の大会において石橋治郎八石橋生糸社長を会長に迎えた。石橋会長は以来十八年間の長期に亘つて郷友会発展に腐心され、昭和四六年八月、八三歳をもつて逝去された。同年十一月、つるや産業社長足立三治氏を会長に迎えた。足立会長は以来五十六年十月まで十年間に亘つて郷友会の発展に貢献されて来たが、一身上の都合で辞任を申出られ、後任に副会長の伴仲信次氏が選任され、重責を担われることとなつた。

関東氷上郷友会会則

（名 称）

第一条 本会は関東氷上郷友会と称する。

（目 的）

第二条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて郷土の発展に資することを目的とす

る。

（会 員）

第三条 本会は氷上郡出身者及び縁故者を会員とする。

（役 員）

第四条 本会に左の役員をおく。

名誉会長 一名

顧問 若干名

会長 一名

副会長 若干名

常任理事 若干名

理事 若干名内二名会計担当

監事 二名

（役員の仕事）

第五条 会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは副会長の互選により一名がこれに当る。常任理事及び理事は会務を執行する。監事は会務及び会計を監査する。顧問は会長の諮問に応じ本会の発展を促進する。

（役員を選出）

第六条 会長及び役員は総会において選出する。

顧問は理事会の推薦により委嘱する。

(役員の任期)

第七条 役員の任期は二年とし、重任を妨げない。

(役員の報酬)

第八条 本会の役員は総て名譽職とする。

第九条 会議は総会と理事会に分ける。

総会は毎年一回十一月に開き必要に応じ臨時総会を開催する。理事会は会長、副会長、常任理事及び理事を以て構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

(会費)

第十条 本会の会費は年額金一〇〇〇円とする。

別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

(寄附金)

第十一条 寄附金は理事会の承認により受納する。

(会計報告、会則の改正)

第十二条 本会の会計年度は毎年十月一日より翌年九月三十日迄とし、会計報告は十一月の総会において行なう。

本会則の改正は総会の議を経て決定する。

お便り・短信

(配列順不同)

足立 和巳氏(青垣) 今年の夏は末娘が小学五年なものですから、長男、長女に行かせたと同様スイス・サマースクールに行かせました。郷友会も一層裸での触れ合いの会となることを期待します。

足立 澄子さん(水上・黒田) 昨年同じマシオンに越して来られた方、姓がもしや丹波の同郷ではと思っておたずねすると同じ町内で小・中・高と同じときき、ビックリ、世間も狭いものですね。

足立 璽氏(青垣・稲土) 父の命日が八月二十一日ですので都合よく店もひまになる時のので五十年から毎年お墓参りに青垣町へ帰

っております。佐治川の花火もいつも見せて頂いています。八月二十五日神戸のポートピアへ姪達を連れて行つて参りました。大変な混み合で有名なパビリオンを見学する事は出来ませんでした。

足立 由宏氏(青垣) 住所録について一言。旧性を必ず書くようにして頂けないでしょうか。同年であつても姓が変わると、どこ誰だか全くわかりません。それから若い人たちが気軽るに集まれる会、または活動のよいなものを開催して頂けないでしょうか。係り同感です。実施しましょう。

青田律子さん(青垣町) 旅愁・里の秋・もみじ・赤とんぼ・びつたりの故郷をもつ私達は何と幸福者でしょうか。この原点の上に今日長寿を迎えられました方々、ほんとうにとてもでございます。

石倉 軍二氏(水上) 少年時代を育ぐくんで呉れた故郷は生涯を通じて最も印象が鮮烈です。同郷の方々のためご奉仕下さる役員の皆様は厚くお礼申し上げます。

上野 重喜氏（氷上）今夏大阪へ転動いたしました。単身赴任です。中央集権による関西の地盤沈下は深刻ですが、交通の便は、はるかにこちらが優っているように思います。

植木 伍鹿氏（山南・和田）時の流れは矢の如く早く、先年やっと八十歳になったと思う間もなく今年四月には日本工業倶楽部で盛大な祝寿の御祝をしてもらい待望の鳩杖を賜りました。当日は私として生涯最高の好日。この鳩杖のお陰で一本足が増し腰が延び歩行にも元氣。地下鉄の階段も氣楽に昇下出来元気百倍、若返って来ました。快食、快眠、快便の昨今、体調も頗る良くこの分では今暫く生き延びられると喜んでおります。

植村 章子さん（春日）一年一年、年を取りまして頭の働きの鈍くなり、体も同様ですが、一日一日を大切にして余生を送りたいと思っております。昨年は四月に台北の故宮博物院特別参観に、二女社社長渡辺様の御勧誘に応じて参りました。余りの立派さに息を呑む思を致し最高年令でしたが皆様のお世話になりました。死土産を得まして社長

様に感謝して居ります。六月には「ふるさと村」を参観させて頂き、若き日の伴仲様の御手腕に感謝いたしました。郷友会の方々の各方面にご活躍を頼もしく存じております。

音無 太美子さん（春日・黒井）私事で恐れ入りますが母も、九十八歳の長寿で春日町の敬老会にお祝いだき、写真を送ってまいりました。

祝受ける母の表情「おおきに」と

声聞える如の写真なり

九十八歳の母に若き町長は

小腰かがめて祝賜えり

門山 寿子さん（氷上）山ざるの名簿で知っている方の名前を拝見してなつかしく思っております。山ざる誌の発行が楽しみです、読んでから田舎に送っております。上大岡におすまいの足立様九州へ行かれました。谷垣様、荒木様、いつもお心にかけていただきましてありがとうございます。

河野 征美さん（市島・中竹田）今、シオノギ横浜分室には、氷上郡出身者が四人も働

いています。こんな事珍しい事です。氷上郡の名を上げるために益々頑張りたいと思います。

小西 保氏（柏原）旧制中学校の同級生で京都在住の莊正衛君のすめにより昨年から関東郷友会に入れて頂きました。

「山ざる」への投稿はご歓迎下さる由です。ので、或いはそのうち貧しいものを寄稿させて頂くかも知れません。横浜在住の林田孝子は私の姉でございます。小谷正雄博士は私のこと全くご存知ないと思いますが、私が六歳の頃、柏原町下小倉の田艇吉郎で一日遊んだ記憶があります。私と同年か一つ年下かでありましたのの上杉謙信・武田信玄などのことをしゃべられて驚きました。

後藤 豊次氏（山南・井原）少し遠距離を散歩しましたところ左脚付根のところが引きつる様に痛くなりましたので総会には今年欠席します。

越賀 史郎氏（春日）東京に来て大学時代から含めるともう十五年ぐらいになります。

しかし丹波弁はまだぬけきません。教師をやっておりますが時折丹波弁が出るとやはり生徒は笑いますがまあこれも仕方ありません。私も頑張っております。

佐々木 盛雄氏(春日) 毒舌行脚や雑文執筆で、浪人生活ながら日々多忙です。

斎藤 俊一氏(山南) 文化刺繍の手芸技術を全国に普及するため東京に来て協会を創り、三十年間に一人の技術員を養成することが出て、毎年百万人の方々がこの手芸を楽しんでおられます。そんなことで東京にいないことが多くていつも総会に出席できず残念に思っております。(全日本文化刺繍協会理事長)

清水 正男氏(山南・谷川) 種々とお骨折りを頂きまして感謝致しております。私も今年古希を迎えましておかげ様にて元気に暮しております。

荘 正衛氏(柏原・屋敷) 十月二三日宝塚のグランドホテルで関西氷上郷友会総会があ

りましたので出席しました。氷上という同じ一つの郷士を持つ者にとっては初めて会った人でも話していると不思議に何等かの係りがあって、話題はつきず、同郷人としての暖かさを感じます。関東氷上郷友会の会員も数名居る様です。数十年の歴史ある両会が何れも益々発展することを祈ります。

須原 清氏(市島・下竹田) 昨年四万円が今年十万円とか(丹波松茸一キログラム)!! ハテサテ何処の食卓へ!?

田中 さち子さん(山南・谷川) こちらに来てはじめてわかりました丹波ぐりのおいしいことを。関東のくりは水つぼくべしやんこ、毎年母より送られて来る丹波ぐりは、くりくりして、ほくほくして、色つやも良く、近所の人にさし上げて甘くておいしいと喜ばれます。(刺しゅう教室を開いています)

田辺 輝一郎氏(柏原) 今春病気のため入院、延び延びになっていた先祖の墓参に十月四日久しぶりで柏原を訪ねました。恰度、栗と松茸の時期で食べる事にこと欠きませんで

したし、帰途篠山に立寄り三木に出て神戸に帰り一日のドライブで故里の山々の景色を満喫しました。

常岡 亮氏(柏原・上小倉) この秋にも親戚の法事参列を兼ねて帰省しましたが、いつも見ても故郷の景色は懐かしいものです。寸暇を得て柏中同期生の故田村壮君のお家をお訪ねしてご令妹の田村元朝様にお目にかかり在りし日の壮君の想い出を語り合つたことは心温まる思いが致しました。丹波の風物はいつまでも俗化されることなく穏やかで平和であつて欲しいと希う気持ちでいっぱいです。

松枝 勝氏(市島) 本当に残念乍ら出席出来なかつて、ふつと家族が寝静まつた時、遠い昔の同郷の方達の顔を思い浮べて懐かしく思っています。一度出席して旧交を新たにしたいと楽しみにしています。

山田 貞子さん(春日) 度々いろんな催しのご案内をいただきありがとうございます。わが家と勤務先を往復するだけの気忙しい毎日で、折角の催し会にも参加させていただく

機に恵まれましたが、「山ざる」誌等で同郷の皆さまのご活躍をなつかしく拝見させてもらっております。老いて病身の母は兄宅（神戸）に身を寄せ、故郷も名ばかりとなりつつあります。

余田 貞雄氏（市島・久良部）当日同郷の友人酒井利雄君の豊中市議会議長就任の祝賀会が開催され、出席の予約を致しておりますので本年は欠席致します。御盛會を祈ります。

横谷 淳氏（氷上・石生）転動で横浜より名古屋に参りました。又関東地区に転動すれば参加したいと存じます。関西氷上郷友会がもしありましたら所在地をお願いします。

編集部より「関西氷上郷友会」は左記へご照会下さい。〒556 大阪市住吉区帝塚山中五―八―二七丹但人社、余田貞雄TEL〇六―六七三―七九九八

足立 三男氏「山ざる」が届いて、なつかしい郷土の事が多く、知っている人も記事の

中にあり一気に読みました。仕事柄関東一円をまわっていますので、時間が許せば知人の所へふるさとの思い出話をしに行くかも知れません。新規会員欄に自分の名前が出ていましたのでこれも友人の好意と思ひ感謝いたします。足立三治様は私の母のクラスメートで、よく話を聞かれています。ふるさと、そして人のつながりの大切さを忙しくあわただしい東京での日常の中に強く感じた「山ざる」の届いた日です。

松永 富子さん（春日）静岡には丹波の方は居られないのかと思って居りましたけれど「山ざる」で身近に見ず知らずの方でも丹波の方が居られることを知りなつかしく機会があれば、お目にかかってみたいと思ったりしています。

磯畑 脩氏「山ざる」いつも楽しく、なつかしく読ませていただいております。亡父弘太郎のあとも皆様といつまでもお付き合ひさせていただきたく思っております。

三年前に夫婦でイタリアへ行つてまいりました。日本を離れて日本の好きが解りました。

た。丹波を離れて久しくなりますが、このころしみじみ懐しく思っております。

直田 正氏（在・デンマーク）「山ざる」、デンマークまで届きました。なつかしく読ませていただきました。わざわざ送っていただき有難うございました。

秋元 多美子さん（氷上）『昭和十年卒業のクラス会があります』という知らせを貰ったので四十年ぶりに五十六年四月に出席して見た。会場は小倉の本祥園。近くの鐘ヶ坂のトンネルは、以前とはすっかり変って都会の遊園地と同じになっているのにびっくりした。

参加者は二十六名だが、阪神、京都在住者が殆んどで、東京からは私ひとりだったが、何年逢わなくても、昨日逢ったような親しみを覚え、お互に旧姓で呼びあったりで、話に花が咲き、予定時刻を過ぎても話は尽きなかった。

女学校時代に津倉校長先生が冬の寒い雪の日に運動靴をはいて雪中行軍をされた話や、思い出話が次々に輪を拡げて楽しいひととき

であった。やはり故郷は年と共に近づき、またの逢瀬を楽しみに帰って来た。

今静かに暮していると、女学校時代のなつかしい思い出が昨日のように思い出され、柏原から成松までの自転車通学やプールのある日などは体のだるさを感じつつも十六丁を帰宅したこと、昔はたんぼばかりの十六丁が、今はすっかり軒並に家が建っている町並みに変わっています。柏原の有名な木根橋も、今に立派に残り、厄神祭のあった神社もあり、一つ／＼が本当になつかしく思い出ばかりでした。

これからも元気の続くかぎりクラス会に出席して旧交をあたため、ふるさとをなつかしみたいと念じております。

常岡 亮氏（柏原）会を二年分送金します。昨年「山ざる」の背部に号数を印刷するよう提案しました処、早速十二号より実行して頂き感謝しております。

本年はまだ帰省の機会に接しておりませんが親戚に法事もありますので、その節には帰柏したいと考えております。

久保 豊氏（山南・岡本）会費の納入はしています。記載洩れになっていますので、お調べ下さい。

生田 清弘氏（柏原）会員名簿中の小生・電話番号四一五一―一八九四とありますが、四一五一―一八九三です。なお勤務先の電話は〇四五一五七一一―一一を〇三二二四二二―四四一に訂正ください。「山ざる」は大変なつかしく、且つ興味深く読ませて貰っています。

後藤 豊次氏（山原・井原）同級梶浦兄の好意に依り入会させて頂き、感謝しております。軽症ながら腰痛がありますが、催しには努めて出席いたす積りです。

有為の方のご活やくの様子を知り意を強くいたしております。

西川政一さんから、わが郷土の生んだ実業界の真人、永井幸太郎長老の一端が発表され有難く感謝しましたが、若い方も多いと存じますので、同長老の自叙伝が発刊されている節は、西川さん初め長く親交を深められている方々の企画で伝記をまとめて頂きたいと

願っています。

莊 克衛氏（柏原）今更ながら「ふるさと」丹波がなつかしくくり返し読んでいます。芦田氏の「ふるさと」の埋蔵文化財」の記事を興味深く読みました。

足立 高彦氏（春日）福知山線の複線化が決り、近代化が近づいています。ふるさとの山々や最近の出来ごとが「山ざる」の記事で、よりなつかしく思い起しています。今年五年ぶりで帰省して見ようと思うのも「山ざる」のおかげでしょうか。

高見 嘉都司氏（市島）表記の八千円、広告料のはかは会費へ振込んで下さい。

係よりⅡ会費は57―61年までです

山口 幸夫氏（柏原）故郷柏原を出てから早くも二十五年になります。若いころは「山ざる」という言葉は抵抗を感じましたが、今ではなつかしく思うようになりました。

あわただし経済社会の中で久しぶりにふるさとを思い出し大変楽しく読ませて頂いています。

す。

東田 実氏（山南）「山ざる」を拝見するたびに、丹波育ちの方々の消息を伺い若い時代の楽しい思い出にふけています。

安田 功氏（春日・黒井）先日は久しぶりにゴルフに参加させて頂いてありがとうございました。

広瀬 すがのさん（山南）東京に住んで四十年、今だに丹波の言葉も習慣も抜けずになつかしく思っています。皆様のご活躍を「山ざる」で拝見して心強く思っています。

藤田 徹氏（市島・上竹田）水上ゴルフ会に一、二回と参加しましたが、第三回大会は会社をやめて、新会社設立のため奔走中のため残念乍ら欠席しました。この度左記にコンピュータデータエントリサービスの小さな会社を設立しました。よろしくご指導を願います。
東京都新宿区高田馬場二ノ一四
ノ二

原田ビル10F プシコー計算機電二二〇

〇一三六七四

山本 憲司氏（春日）新入会しました。よろしく願ひ申し上げます（足立正氏紹介）

転居・転任

佐中 哲郎氏（水上・石生）積水化成工業KK天理工場に転任され、自宅も左記に移られた。

〒681 奈良市平松町雲雀ヶ丘四六二―三
中城マンション一〇五号 電〇七四二
―四六―六八八四

宮崎 豊文氏（水上・稲畑）五十六年六月から二年間アンカレッジへ赴任のため、家族全員渡航いたします。留守中は左記へ連絡下さい。日本航空勤務です。

〒244 横浜市戸塚区上粕尾町五三九―四七
山口博人方

徳田 八郎衛氏（柏原・母坪）五十七年八

月一日より札幌へ転動します。在京中はいろいろお世話になりました。また東京へ帰って来ますので、その節はよろしく。

勤務先Ⅱ防衛庁、陸自北部方面通信部一〇二基地通信大隊長 電〇一一五二―七二一六（内三八〇）

住所〒061-1 札幌市南区南三四条西一〇ノ二六七ノ一官舎二一―一〇一

寄附金明細

（自昭和55・12・31
至昭和56・12・31）

敬 称 略

有田喜一（一〇〇、〇〇〇）

永井輝江（三〇、〇〇〇）

足立三治（二五、〇〇〇）

梶原清・田中健治（各二〇、〇〇〇）

水上町長・春日町長・宮本はるゑ・梅垣（各一〇、〇〇〇）

大西俊治（五、〇〇〇） 山中人美・木下昇

治（各四、〇〇〇） 伴信次・須原清・坂上

勝朗・田中篤郎（各三、〇〇〇）

合計二六〇、〇〇〇円

会費領収報告

(自昭和55・12・11
至昭和56・12・31)

56年分 渡辺金三 田中寛 梶原清 全や

すこ 宮野 安達健一郎 村上大憲 田英夫

谷垣博 高桑良弥 宮本はるゑ 西垣秀正

荒木泰雄 植木伍鹿 小野智恵子 笹倉武夫

芦田昌保 田中茂雄 大野渥子 小谷崇 福

井謙三 近藤田治 羽賀澄代 掘井隆川 駒

宮恒吉 菅野きぬゑ 田沢よしゑ 岩曾豊明

植木弘 高野康成 伊田光男 阿江ひさ子

大西美鈴 足立静夫 加藤信太郎 今田二三

夫 有田繁司 赤松誠司 最上次郎 山岸幸

子 荻野吟逸 千葉和子 石井和世 村上照

雄 足立範雄 藤田かね 柿原陽 市原この

ゑ 頼原博 阿部すみゑ 若森敏郎 足立昌

彦 百木雅崇 豊島昭男 上嶋一晃 荻野武

白樺山本 森本和三 清藤節子 足立和雄

石本美恵子 小野勝弘 田辺善人 荻野一雄

婦木一男 足立高彦 門脇恵子 横田公子

吉田勇司 村上忠紀 高見寿子 井上陽一

豊島幹雄 北村貞子 久保良雄 高見修次郎

有田毅 菊地顯三 兼松幸夫 須原逸郎 泉

菅子 梶田重子 天野清子 岡原裕泰 東田

実 大槻作次郎 山本憲司 足立東一郎

53・55年分 井本義一

53・57年分 足立源治

53・62年分 小西甚左門 千種倫幸

54・55年分 織田信正

54・56年分 生田清弘 井上英人 恵本み

よし 井村正之

54・58年分 常岡昭 葦田裕子

54・60年分 木下昇治 山中人美

55年分 村上豊 山中一朗 篠原よね 磯

畑修 森本和子 芦田坦 高橋通也 荻野完

二 植木一夫 松本金吉 後藤豊次 村上喜

侑

55・56年分 下中昭男 久安敏夫 大地富

美子 諸江節子 中井良平 地田八重子 村

上善英 十倉博 大木義則 大石佐代子 竹

村政雄 直田正 室井利代 足立勝 井上博

史 菱田ふみ子

55・59年分 梅田重二 山莊慶子 安田功

松永富子

56・57年分 児玉安正 音無太美子 大江

範子 永井常資 木呂子恵美子 西岡前子

荻野聡子 村上久夫 足立三男 宮崎豊文

須原清 栗田節子 小林剛 志村勝郎 久保

豊一 若栗すみ子 徳田八郎工 常岡亮 綾

木健 村上高弘 高見秀史

56・58年分 山口幸夫 藤田徹 堂本晃

烟武司

56・59年分 秋元多美子 関正治 瀬々妙

子 足立忠三

56・60年分 足立誠一 田中篤郎 小寺確

郎 芦田律子

57・58年分 村上大憲 宮川清司 林田孝

子 上田正巳 松山幸逸 広瀬五男

57・59年分 田英夫 井上和三 西垣秀正

57・60年分 谷垣正雄

57・61年分 高見嘉都司

57年分 宮本はるゑ 松枝勝 足立治 植

木英吉 林谷集 木村つたゑ 山内隆行 足

立正 村上末吉 高尾久子 森田淳二郎 広

瀬すの 安達健一郎 上山英夫 上山顕

58年分 足立治 莊正衛

58・59年分 藤田徹 小林剛

59年分 小谷正雄 足立治

59・60年分 烟秀夫

60・62年分 三宅良夫

(以上)



ある国には 資源がいっぱい埋っている
ある国には 技術があるという
また ある国には……………
世界は 別々に豊かさをもっている
日商岩井は そんな1つ1つの豊かさを
結びあわせることで より大きな豊かさを
実らせたいと 考えています

明日のゆたかさを考える



建築材料販売工事

建設大臣登録（般）51 第 1834 号

中央建材工業株式会社

取締役 荻 野 武
東京営業所長

（市島町出身）

本 社 名古屋市千種区若水町 3—26
電話 052（761）6181番（代表）

東京営業所 東京都中央区銀座 7 丁目 14—3
電話 03（543）8106番（代表）

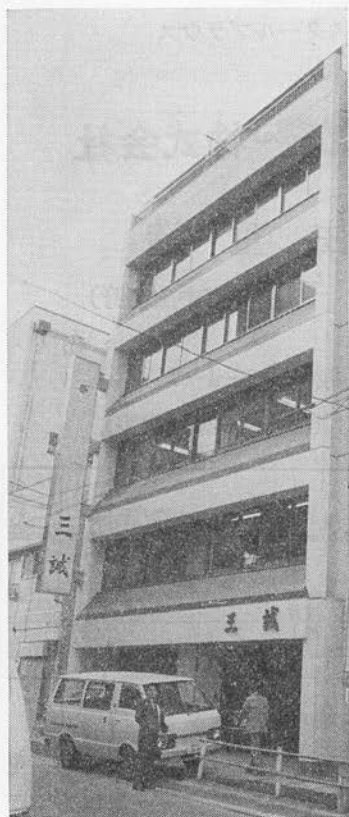
大阪営業所 大阪市西区靱本町 2 丁目 4 番10号
電話 06（443）6665番

仙台営業所 仙台市高松 2 丁目 1 番15号
電話 0222（73）5724番

◆エレクトロニクスパーツの専門商社◆

株式会社 三 誠

東京都文京区湯島2-24-13 (834) 3171 (代表)



取締役社長 足立 誠一

☆主要取扱メーカー

日本航空電子工業株式会社

多治見無線電機株式会社

株式会社フジソク

日本開閉器工業株式会社

ライン精機株式会社

本多通信工業株式会社

Sonnenschein

Slider® BASEBALL UNIFORMS

あらゆるスポーツウェアのご相談は当社へ

Onaji Mai Mai®

園児服・園児用品
スクールウェア・スクールブラウス

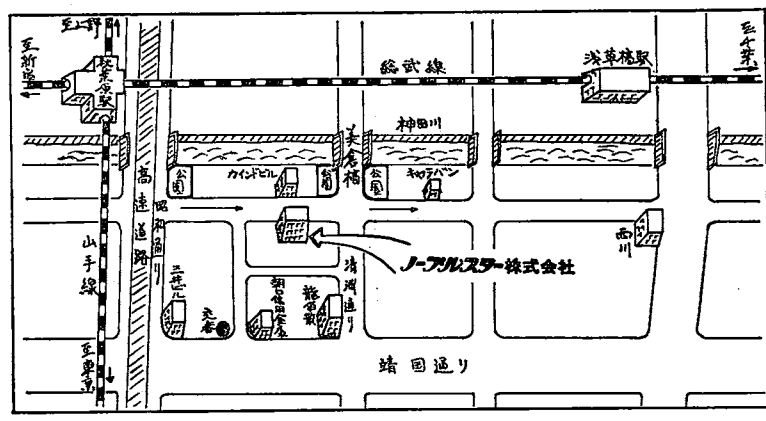
Noble ノーブルスター株式会社

取締役社長 吉住重造

(春日町中山出身)

本社 〒101 東京都千代田区東神田 2-4-7

電話 03 (866) 9121 (代表)



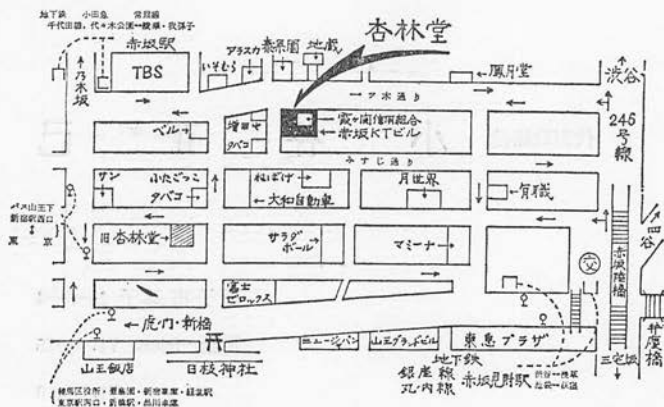
杏林堂

小川 晴 通

新宿診療所：東京都新宿区西新宿 1-26-2

新宿野村ビル 5階 電話 (348)0721代表

杏林堂診療室 診療時間の受付は前もって電話にてお約束いたします



日本海運振興会会長

有 田 喜 一

東京都千代田区平河町二丁目四番
電 話 (二六三) 九四一七番
東京都世田区成城四ノ一ノ一五
電 話 (四八三) 一二〇九番
兵庫県氷上郡氷上町谷村
電 話 〇七九五八(二〇〇〇)八番

株式会社 つるや洋装店

株式会社 東逗子駅前ビル

東 海 産 商 株式会社

代表取締役

小 谷 正 己

逗子市逗子 1-6-4

電話 0468. 71. 3075

71. 6449

日本メキシコ協会会長
日本バレーボール協会会長
アジアバレーボール連盟名誉会長
国際バレーボール連盟副会長
日商岩井株式会社相談役

西川 政一

(住) 東京都杉並区善福寺二ノ三五ノ二六
電話 (三九〇) 一三一六番
(寓) 静岡県伊豆高原
電話 〇五五七―五三一―二五六〇番

学校法人国学院大学理事
国学院高等学校々長
学校法人国学院大学幼児教育専門学校々長
財団法人日本私立大学連盟理事
財団法人私学研修福祉会理事

小林 武治

東京都武蔵野市境南町一―三〇―二〇
電話 〇四二二(三二)四七九六番

調布市社会福祉協議会理事

調布市豊かな老後のための市民会議実行委員
老人問題研究所

木村 つた江

東京都調布市東つつじヶ丘2-39-5

電話 東京(300) 1505番

のびのびベビー・こどものファッション白冊

株式会社



本社 〒158 東京都世田谷区瀬田1-22-19
TEL 03-700-3121 代表
ファッション 〒158 東京都世田谷区玉川台1-13-12
センター TEL 03-708-1151 代表

代表取締役 山本清士

株式会社 近藤写真製版所

取締役社長 近 藤 勇 夫
(国領出身)

東京都新宿区下宮比町8番地

電 話 (260) 6 2 8 1 番 (代表)

株式会社 三 葉 水 道

代表取締役 橋 爪 忠
(氷上町黒田)

千葉県八千代市八千代台西 7-5-29

電話 0474-84-7121番

郷友の皆様 生命保険に加入されるなら
ぜひ当会をご利用ください

明治生命保険相互会社 代理店

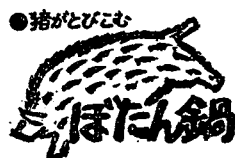
ひ か み 会

代表 伴 仲 信 次

東京都千代田区飯田橋2丁目9番 春日建設(株)内
電話・東京 264-4011(代)

城下の面影を残す 奥丹波柏原の宿

山菜料理からアマゴ・ヤマメ・鱒・鯉・鮎・等川魚に始まり
香り高い松茸・丹波牛の肉料理、ボタン鍋



日本観光旅館連盟会員

三 友 楼

兵庫県氷上郡柏原町八幡筋 電話：丹波柏原(07957)②1110~2

客室数17室、収容人員60名、駐車場完備、送迎用マイクロバス

松 尾 フ ル ー ツ

上 田 鉄 太 郎

(春日町野山出身)

〒102 東京都千代田区麴町6丁目

(国電四ッ谷駅前)

電話 自宅03 (261)―2830番 店舗 (264)5060―1番

東急建設株式会社

常務取締役 芦 田 重 秋

〒150

東京都渋谷区渋谷一丁目十六番十四号
渋谷地下鉄ビル内
電話東京〇三(四〇六)五一―(大代表)



スカイライン・グロリア・ラングレー・アトラス他
日産車購入については遠慮なくご相談下さい。
お子様の学力向上には公文式の算数・国語教室で

足 立 和 巳

自宅

府中市栄町一―一五―二七
電話(〇四二三)六四―七二二七

ミワ電気工事株式会社

代表取締役 足 立 謙 悟

〒220

横浜市西区岡野一丁目八番地八号
電話 〇四五(三二二)五二九一番(代表)

明治生命保険相互会社
認定生命保険士

足 立 正

事務所(〇三)一六六三―四三三―五
自 宅(〇四二七)―二六―八一四九

トヨーサツシ株式会社
東洋サツシ工業株式会社

取締役会長 足 立 徹

〒100 東京都千代田区内幸町二丁目二番二
電話(〇三)五九一一―三三八八(内線五〇二)
直通(〇三)五九一一―三七六五

アヤキファツションシステム

代表 綾 木 健

東京都港区南青山四ノ八ノ四
パレス南青山二〇二
電話 四〇八一―六二三三五番

有限会社井上商店

社 長 井 上 和 三

電話 三鷹市深大寺三八〇六
〇四二―一三二―一三四八八

植 木 紙 工 所

代表者 植 木 一 夫

東京都文京区白山三丁目一ノ十三
電話(八一)八五七三番

埼玉日産モーター株式会社

専務取締役 大 西 俊 治

本社 与野市上落合九三五番地
電話〇四八八(59)五一〇三番(代表)

(株) パンオーディオシステム

代表取締役

岡

林

逸

男

〒330

大宮市盆栽町五一四(押田ビル)

〒167

TEL(〇四八六)六五―三六九四(代表)

東京都杉並区善福寺四―八一―九

TEL(〇三)三九四―六八四四

小田富士夫

丹波興産株式会社

代表取締役

柿

原

陽

〒150

東京都渋谷区桜丘町三十一番十五号

住友生命渋谷ビル

電話(03)四六四―一七七(代表)

参議院議員

梶

原

清

日本学士院会員
東京理科大学学長

理学博士 小

谷

正

雄

自宅

東京都新宿区神楽坂一ノ三
電話東京(二六〇)四二七一(代表)
東京都大田区山王三ノ三六ノ四
電話東京(七七一)六六五二

銀座店のご案内

丹波ささ山
山家のお酒

さ

さ

ぎんざ6―2あしべビル2F
電話(五七一)四四二二三

D・M・S ダイレクト・メール・サービス株式会社

取締役
業務推進本部長

坂上勝朗

本社 〒101 東京都千代田区神田小川町一ノ十一
電話 東京(293)二九六一番(代表)

静岡大学教授

坂本重雄

自宅 静岡市小鹿三丁目四一五(〒422-2)
公務員住宅八一二六
電話 ○五四二(八二二)八〇五八番

昭和企業株式会社

取締役
下中昭男

〒130 東京都墨田区吾妻橋一ノ三ノ三四
(アサヒビル 吾妻橋工場内)
電話(六二六)四三〇七、九番

須原清

東京都中野区南台五の三〇の六
電話(三八一)一六二一、一六二二番

勢川武彦

〒164 中野区東中野二ノ一七ノ二〇
TEL 三六一一八六七六番

高見産婦人科

医学博士 高見嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話(九五六)〇六〇〇番

高見 齒科

高見 幸男

〒176 練馬区錦町二一八―三
電話 九三三―六七三―一番

谷 垣 正雄

東京都杉並区高井戸西二―二四―一七
電話 (二三三) 六一六〇番

田中 篤郎

株式会社 環境計画コーポレーション

取締役 谷 口 捷

〒150 東京都渋谷区道玄坂一―一五―一七
プリメーラ道玄坂ビル八〇四
TEL (〇三三) 四七六一―〇四〇

大菱印刷有限公司

田中 寛

〒101 東京都千代田区神田東松下町十
電話 (二五六) 九三五七番

参議院議員

田 英 夫

東亜国内航空株式会社
整備本部 機体工場 電装整備課

課長 豊島幹雄

〒144 東京都大田区羽田空港二丁目五番三号
電話〇三(七四七)六二七八番
座席予約受付(七四七)八一一番(代)

中井良平

西尾久之

横浜市西区西戸部町二丁目一八
電話 〇四五・三二一・四八三三

黒川木徳証券株式会社

畑秀夫

本社 東京都中央区日本橋一丁目一六―三
電話 東京(〇三)二七八―七八四六番

波多洋三

文京区春日二丁目一七―二
電話(〇三)八一―二八六〇番

株式会社テラモト
東京支店営業部

次長 広瀬五男

東京都墨田区東駒形一丁目九番二号
〒130 電話(〇三)六二四―七九二番(代)

日本育英会

藤田正雄

〒162 東京都新宿区市ヶ谷本村町四二番地
電話東京(03)二六九一四二六(大代表)
川崎市多摩区王禅寺六七八一四
電話(0四四)九五四一四九五七番
自宅

都営八王子霊園・東京霊園正門前

青葉山住職
真昭寺
堀井隆川

〒193 東京都八王子市元八王寺町三一三三九七
電話(0四二六)六三一八四〇二

エクステリア専門商社
株式会社大洋

代表取締役社長
松下文雄

本社 〒351 埼玉県朝霞市膝折三一七一五
電話(0四八四)六六一一五五(代)

松山幸逸
(竹水)

〒171 東京都豊島区西池袋四一八一八
電話 九七一―五七四三番

株式会社興水タイヤ商会

取締役経理部長
三宅良夫

〒210 川崎市川崎区元木一ノノ一
TEL 0四四―三三三六三二(代)

曹禅寺住職

村上大憲

東京都大田区池上七丁目二番十号
電話 0三一七五一―0三五番

株式会社 スズヤ洋装店
株式会社 イイダスズヤ

取締役社長 村上 豊

電話〇三(七三三)四〇四八・(七五二)四七九八

エイ・エム・ティ株式会社

取締役社長 百木 雅 崇

東京都港区浜松町二ノ三ノ二三
フクダビル
電話(四三一)三五五一番

大七證券株式会社

投資顧問部 安田 功

〒103 東京都中央区日本橋兜町一ノ八(日証館)
電話 東京(六六七)九一一一番(大代表)

山中 一 朗

227 横浜市緑区美しが丘三十四六一一
電話(〇四五)九一一一四四九三番

社団法人日本プラント・技術部
プロジェクトマネジャー

若森 敏 郎

〒100 東京都千代田区有楽町一丁目八番一号
日比谷パークビルディング(三階)
電話 東京(213)八五五一番(代表)

名刺広告募集 協賛広告料三千円

Kataly ユニークな自走機構—溶接前の開先取りに最適!

ハタリー

ハタリーのヨロ鋼開先加工機

1500

おかげ様で、ハタリーの高精度開先加工機の納入実績が、今年2月現在で1500台を突破しました。全国の鉄工所各位がご使用の開先加工機10台につき7台までがハタリー製品です。

ハタリー機販株式会社

代表取締役 古倉 克 實

〒274 千葉県船橋市習志野台6丁目22-8

Tel 0474-63-9291

埼玉営業所 04947-5-1151

仙台営業所 0222-94-7600 (山喜内)

名古屋営業所/大阪営業所/広島営業所

交通事故

もし、あなたが加害者だったら……

水かけ論の
あげく……



仕事中また
電話がくる……



いったい誰に
相談しよう……



自動車事故の経験がある方なら、おわかりのはずです。事故発生後の不慣れで非常にめんどろな話し合い、ときには「言い争い」、「水かけ論」になってちががきません。こんな悩みをスピーディに解決するのが
AIUの示談交渉サービス

賠償事故が発生した場合、**AIU**があなたのために被害者と折衝・示談に当たりますので、精神的苦痛や時間、費用のむだから解放されます。もしもの時の心強いパートナーとしてお役に立ちます。

示談交渉から保険金のお支払いまでまかせて安心！

AIUの自家用自動車保険

●ご契約条件と保険料例(年払・割引なし)

保 険 金 額				年令条件	自 家 用 普通乗用車 自 家 用 小型乗用車	自家用 軽四輪 乗用車
対人賠償 無条件	自損事故	対物賠償 (免責なし)	搭乗者傷害			
1名あたり	1名あたり	1事故あたり	1名あたり			
万円	万円	万円	万円	年令を問わず担保	84,600円	49,140円
10,000 (1事故 無制限)	1,400	500	1,000	21才未満不担保	71,480円	42,850円
				25才未満不担保	63,790円	39,130円

※上記以外に各種保険金額の組合せがあります。

※他社から**AIU**への契約移行のとき、他社で無事故であれば無事故割引(最高50%)をいたします。

あらゆる保険について お気軽に ご相談ください



代表者
代理店 **永愛友商事** KK前田和市

〒107 東京都港区赤坂3-1-2 AIUビル 電話585-0740(代)

美味無比 木の实酒

栗の三年酒

くり

さん

ねん

しゅ

この木の实酒「小鼓くりの三年酒」は、純粹の丹波産栗の实、梅の实など山野の木の实を原料として秘醸したもので、常用すれば胃腸を整え健康と美容と活力を増進します。

ストリートでお飲みいただきますと、さわやかな梅の香りがひろがり、あと口にはコクのある栗の味が残ります。

お正月のお屠蘇には、縁起のよい「小鼓栗の三年酒」をお用い下さい
キツト好評です。

◆丹波焼壺詰
◆徳用びん詰

(1、
35 50
00 00
00 00
ml ml ml ml)

小鼓の西山酒造場

氷上郡市島町中竹田
電話(〇七九六)⑥〇三三二代

1級建築士事務所

桂建築総合研究所

ビル建築の設計・監理
事務所建築・賃貸ビル・商業ビル・都
市再開発にともなう新築ビル・アパー
ト・マンション・住宅…等の新築ビル
経済性を尊重した優美な設計

株式会社 桂 工 務 店

店舗の内装設計・施工
住宅の新築・改造・増設施工・都市美
観工事にともなう街路・オーニング・
看板・電飾看板等の設計・施工
システム化された近代経営

株式会社 商店建築社

商業建築・建築関係図書出版・月刊誌
商店建築・TAU発行・名作シリーズ・
単行本写真シリーズ…等多数発行

春日町中山出身 村上末吉

住所 東京都世田谷区南烏山2-33-11 TEL 308-8820

完全複製 台北・故宮博物院の名蹟

■法書十二件

- ① 晉・王羲之・奉橘三帖(卷)……………定価三〇〇〇円
- ② 晉・王羲之・快雪時晴帖(冊)……………定価三〇〇〇円
- ③ 唐・孫過庭・書譜(卷)……………定価七〇〇〇円
- ④ 唐・懷素・自叙帖(卷)……………定価六五〇〇円
- ⑤ 宋・蘇軾等・四名家小品(冊)……………定価六〇〇〇円
- ⑥ 元・趙孟頫・閒居賦(卷)……………定価四五〇〇円
- ⑦ 元・張雨・七言律詩(軸)……………定価三〇〇〇円
- ⑧ 明・祝允明・慶誕記(軸)……………定価四〇〇〇円
- ⑨ 明・文徵明・醉翁亭記(軸)……………定価三六〇〇円
- ⑩ 明・董其昌・杜甫詩(軸)……………定価六六〇〇円
- ⑪ 唐・懷素・千金帖(卷)……………定価九〇〇〇円
- ⑫ 宋・蘇軾・黃州寒食詩(卷)……………定価五五〇〇円

■名画二十件

- ① 唐人・宮樂図(軸)……………定価六六〇〇円
- ② 五代・丹楓呦鹿図(軸)……………定価五八〇〇円
- ③ 宋・范寬・谿山行旅図(軸)……………定価一五〇〇〇円
- ④ 宋・郭熙・早春図(軸)……………定価一〇〇〇〇円
- ⑤ 宋・崔白・雙喜図(軸)……………定価一〇〇〇〇円
- ⑥ 宋・米芾・春山瑞松図(軸)……………定価五五〇〇円
- ⑦ 宋・劉松年・羅漢図(軸)……………定価五五〇〇円
- ⑧ 宋・馬遠・雪灘雙鷺図(軸)……………定価五五〇〇円
- ⑨ 元・吳鎮・洞庭漁隱図(軸)……………定価五五〇〇円
- ⑩ 元・王蒙・具区林屋図(軸)……………定価六六〇〇円
- ⑪ 元・倪瓚・容膝齋図(軸)……………定価三三〇〇円
- ⑫ 元・趙孟頫・鵲華秋色図(卷)……………定価五五〇〇円
- ⑬ 元・黃公望・富春山居図(卷)……………定価六六〇〇円
- ⑭ 明・王絛・山亭文会図(軸)……………定価五五〇〇円
- ⑮ 明・沈周・廬山高図(軸)……………定価一〇〇〇〇円
- ⑯ 明・唐寅・山路松声図(軸)……………定価二〇〇〇円
- ⑰ 明・仇英・仙山樓閣図(軸)……………定価四六〇〇円
- ⑱ 明・董其昌・葑涇訪古図(軸)……………定価五五〇〇円
- ⑲ 清・王翬・溪山紅樹図(軸)……………定価四六〇〇円
- ⑳ 清・惲壽平・做倪瓚古木叢篁図(軸)……………定価三三〇〇円

内容案内呈



二玄社

東京都千代田区神田神保町2-42/〒101
振替東京4-28782/電話(03)263-6051(代表)

あと がき

▼会誌第13号をお届けする。
ご覧の通りの内容である。昨夏以来の依頼が利いて多彩な原稿を集めることができて、編集室は大喜びであるが、本

号にはお約束通り、会員名簿を添えたので、ページ数が、前号の倍になった。その上、坂上理事の努力で旧姓まで書き入れた結果ますますページ数が増えた。そうなると制作費が大変な額になる。その上に郵便料金も値上りしている。従って現行の年会費一、〇〇〇円では、到底運営出来ないから値上げに踏切ったら? という意見も出はじめている。今どき一、〇〇〇円会費の会は珍しいが増額することだけが能ではなく、未納者を出来るだけ少なくすること、新しい会員を増やすこと、並びに会の魅力を増す運営を図ることなどなど、値上げ以前に考慮すべしとの貴重な意見も傾聴に値いしよう。

これらの懸案については、新執行部に委せて、編集部としてはいい誌面を会員各位に提供していきたい。だからこの号も充実した内容を提供したと自負している。特にふるさとから二篇の玉篇を頂いている。一篇は「ふる

さと・あれ・これ」で、もう一つはわれわれの少年時代、よく味わった「かしわ餅」の味と香りである。

その他柏原藩の無念流を始め異色の原稿など、それぞれの職場や勤務先での貴重な体験や所感の集積である。読物としても興味深い玉藻ばかりである。

だから今後ともこうした原稿を載せるためにも、郷友各位が、制作費に心配のないよう協力を願う。

なお前後になつたが、会計報告の帖尻で見られるように裕福になつたわけは、今日まで財務理事を担当してくれた小谷正巳理事の努力であることを記して同氏に感謝を表する次第である。

次号の切り!

会誌「山ざる」第十四号の切りは昭和五十七年十二月末日です。発行は同五十八年四月の予定です。発行がおくればちになります。お早めに随想、身辺雑記、紀行、詩文、何でも結構です。お気軽にご寄稿下さい。写真も添えて下さればなお幸いです。
(編集委員会)

ふるさと春を迎える季節になる、さて一句

丹波路に田植唄消え老いゆけり

竹水

山ざる 第13号

昭和五十七年四月二五日印刷

昭和五十七年四月三〇日発行

編集委員 松山幸逸 足立正 坂上

勝郎 須原清 常岡幹彦

波辺隆男 小田富士夫

発行所

関東氷上郷友会

東京都千代田区飯田橋二丁目九番三号

春日建設株式会社内 〒102

TEL 東京〇三(264)四〇一一番(代)

振替番号 東京 一〇一三三三〇番

製作 株式会社 二玄社

GRUE BONNE 高級婦人服製造卸
つるや産業株式会社

取締役社長 **足立三治**

東京店 品川区西五反田 7-22-17番地

東京卸売りセンター12階

電話 (03) 494局3285~7番

本社 川崎市中原区新丸子 7 0 1 番地

電話 (044) 722局6371 (代表)

社長室直通 711局3324



赤塚 氷川神社 本殿及神楽殿 当社施工

綜合建設業

建設大臣許可第233号

春日建設株式会社

代表取締役 伴 伸 信 次

専務取締役 伴 伸 信 義

東京都千代田区飯田橋2丁目9番3号・電話東京(264)-4011番(代表)